

12・8 宇都宮里親傷害致死事件を考える

- 「愛着障害」を知ってください -

緊急集会

資料集

1 . 宇都宮 里親傷害致死事件の経過	1
2 . 栃木県里親家庭緊急調査報告	2
3 . 乳児院の資料（全乳協ホームページより）	4
4 . 「親の心のケア」（広岡智子氏）	7
5 . 愛着障害関係資料	
愛着障害とは何か？	13
最新の調査による養子・里子の愛着障害	16
養子縁組を決意するまでに知っておくべき事	18
6 . アン基金通信	22
7 . 宇都宮 里親傷害致死事件の報道	24
8 . 新聞切り抜き	35

2002年12月8日（日）午後1時

なかのZERO

主催 東京都養育家庭連絡会
アン基金プロジェクト

宇都宮 里親傷害致死事件の経過

1999/09

李夫妻、「子どもが出来なかったから」と県に里親申請。

2000/02

韓国で九年間、幼稚園教諭として子育ての実務経験があり、安心して子どもを委託できるとして、里親登録。

2001/12

李夫妻、順子ちゃんの兄(4)を乳児院より引き取る。

2002/03

児童相談所が、「兄と妹そろって生活した方がよい」と考え、李夫婦に順子ちゃんの養育を持ち掛ける。

2002/07/12

児童相談所は、順子ちゃんを養育委託。

2002/11/01

県中央児童相談所が、7/12から2回目の訪問。

担当職員が午後8時から約1時間、訪問。順子ちゃんは里母のひざに乗るなどなじんでいる様子で、外に見える部分ではアザも見あたらず、異変はうかがえなかった。

2002/11/03

午前1時ごろ、自宅のアパートで、順子ちゃんの頭を素手で数回殴り、約1時間後に死亡する。宇都宮中央署は、李永心容疑者(43)を傷害致死の疑いで緊急逮捕。

死因は外傷性の急性硬膜下血腫。暴行によるものとみられ、遺体の腕や脚などには多数の古いアザがあった。県警は、李容疑者が虐待を繰り返していたとみて調べている。

宇都宮中央署の調べでは、兄に虐待の傷あとがない一方、順子ちゃんの遺体には、全身にわたって、古いものも含めて十力以上のあざが確認された。

2002/11/04

県児童相談所は、事件の再発防止のため、今後、早急に児童福祉司による里親家庭の訪問回数を増やす方針を明らかにした。委託直後の家庭を重点的に、訪問回数を1ヶ月に1回程度に増やし、電話連絡をまめにするよう指導する。

2002/11/04

宇都宮中央署は、傷害致死の疑いで李容疑者の身柄を宇都宮地検に送検。

2002/11/06

県が、里子を引き取っている里親全員を対象に実態調査をはじめ。

2002/11/06

坂口力厚生労働相は六日の衆院厚生労働委員会で、水島広子氏(民主)の質問に、親元で暮らせない児童を預かる里親制度について「日本は里親が少ない。質、量ともに前進させる必要がある」と、同制度の拡充策を検討する考えを示した。

2002/11/14

県里親連合会は14日、藤原町のホテルで年1回定例で行われる里親大会を開き、県内の里親約130人と県関係者らが出席。冒頭で、今月3日に里親に殴られて亡くなった大沼順子ちゃん(3)への黙とうが行われた。

2002/11/22

県児童家庭課は22日、宇都宮市の里子傷害致死事件を受け、県内の里親家庭58世帯を対象に行った聞き取り調査の結果を発表した。里子64人中、ほぼ半数の31人の里子に対し、何らかの悩みがあると回答した。「落ち着きがない」「反抗的」など子育てに関する悩みのほか、実親との関係や里子への告知をめぐる悩みが目立った。今後、同課職員や児童福祉司で検討班を設置し、調査結果を詳しく分析する。

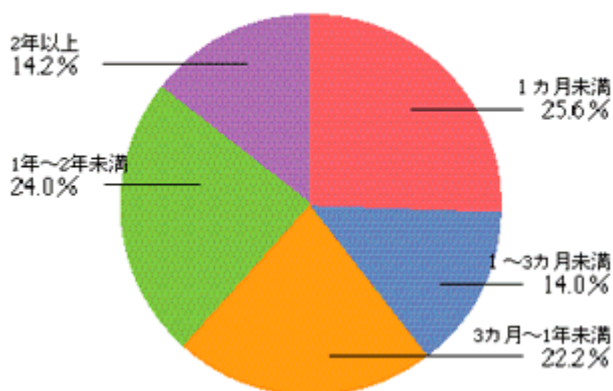
2002/11/22

宇都宮地検は22日、里子の女兒(3)を殴って死なせた傷害致死の罪で、里親の宇都宮市日の出2、主婦、李永心容疑者(43)を宇都宮地裁へ起訴した。

乳児院の退所理由

多くの子どもたちは家庭に戻ります

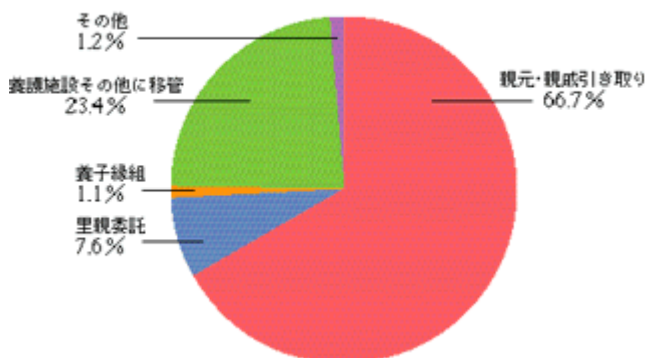
子どもが乳児院でくらす期間



赤ちゃんが乳児院でくらす期間は、どのくらいでしょう。調査では、1カ月未満が25.6%、1～3カ月未満が14.0%、3カ月～1年未満が22.2%、1年～2年未満が24.0%、2年以上が14.2%でした。

1年未満がおよそ62%です。なかでも、1カ月未満の短期利用が全体の約25%を占めています。このことから、短期間の利用施設としての乳児院の機能がよくわかります。地域の「家庭福祉」をサポートするものとして、その機能が定着してきていることを示しています。しかし、一方では2年以上、乳児院でくらす子どもたちが約14%を占めています。旧来からの家庭代替え機能としての乳児院の役割も、一定数を対象として求められている結果といえるでしょう。

子どもが乳児院を退所する理由



(平成8年度全国乳児院入所状況実態調査より)

乳児院を退所する子どもたちの80%近くは、両親や親戚のほか、里親委託や養子縁組などにより、家庭に引き取られていきます。詳しく見てみましょう。親元・親戚引き取りが66.7%、里親委託が7.6%、養子縁組が1.1%、養護施設その他に移管が23.4%、その他が1.2%でした。

また、乳児院から養護施設に移った子どもたちを追跡調査した結果、その約半数は幼児期に家庭に戻っていることがわかりました。つまり、乳児院に入ってきた子どもたちの約90%が、結果的に乳幼児期に家庭復帰していることとなります。

乳児院のスタッフは、退所後の子どもたちが、心身ともに健やかに成長することを心から望んでいます。

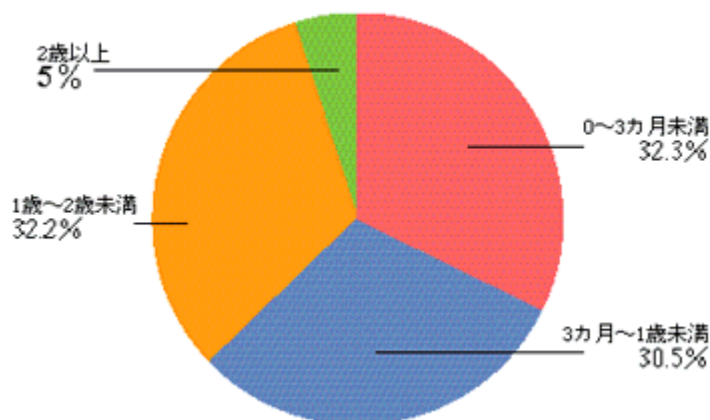
[乳児院でくらす子どもの数](#) | [子どもが乳児院に入る理由](#) | [全国114乳児院リスト](#)



乳児院でくらす子どもの数

全国の乳児院で2650人の子どもが元気にくらしています

乳児院に入ったときの子どもの年齢



乳児院は北海道から沖縄まで、全国に114カ所あります。その乳児院でくらしている子どもの数は、全国で2650人です。男の子はそのうち1301人、女の子は1349人です。

入所時の年齢分布では、生後1カ月未満～3カ月未満までが全体の32.3%、3カ月～1歳未満が30.5%、1歳～2歳未満が32.2%、2歳～3歳未満が4.5%、3歳以上が0.5%です。

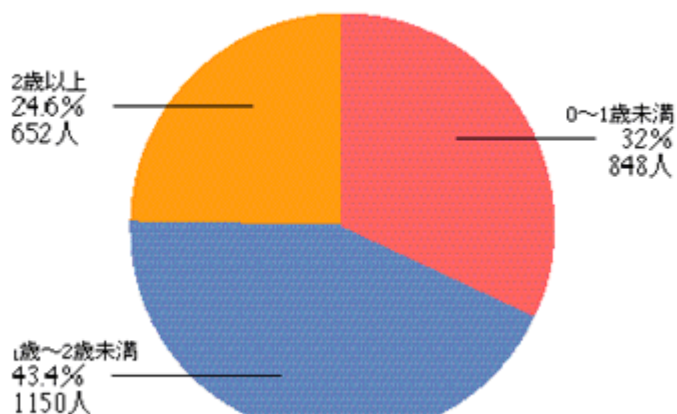
在籍している子どもの数を見ましょう。生後3カ月未満が121人で全体の4.6%、3カ月～6カ月未満が231人で全体の8.7%、6カ月～1歳未満が496人で全体の18.7%でした。生後1カ月未満～1歳未満の赤ちゃんたちが全体の32%を占めています。

1歳～1歳6カ月未満の赤ちゃんは、575人で全体の21.7%、1歳6カ月～2歳未満の赤ちゃんも同数で全体の21.7%、1歳～2歳未満の赤ちゃんたちが全体の43.4%を占めています。

2歳～3歳未満の子どもが561人で全体の21.2%、3歳～4歳未満が77人で全体の2.9%、4歳以上が14人で全体の0.5%でした。

従来、入所対象年齢は2歳まででしたが、平成10年4月の児童福祉法の改正によって、2歳を過ぎたお子さんでも、児童相談所が適当と判断した場合には、乳児院で生活できるようになりました。その後、家庭復帰などができない場合は、乳児院から児童養護施設に移ることになります。

乳児院でくらす子どもの数[全国で2650人]



(平成8年度全国乳児院入所状況実態調査より)

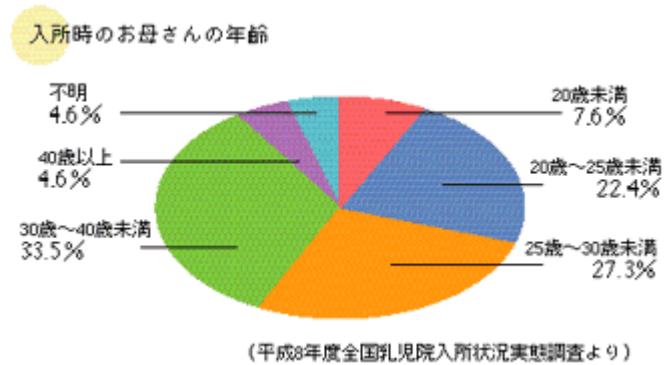
[子どもが乳児院に入る理由](#) | [乳児院の退所理由](#) | [全国114乳児院リスト](#)



子どもが乳児院に入る理由
お母さんの病気が最大の理由です

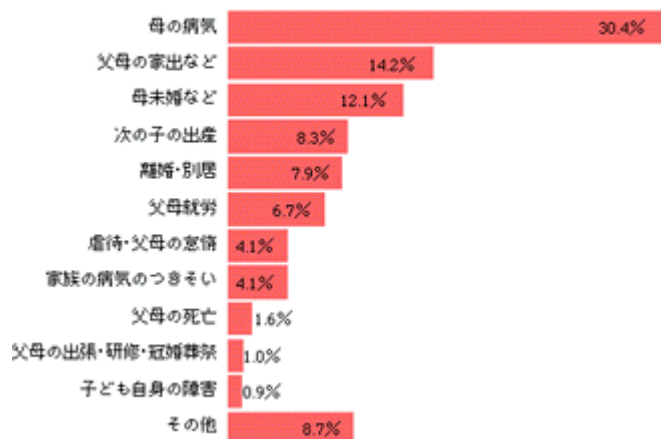
子どもが乳児院に入る理由は、お母さんの病気がもっとも多く、次いで、父母の家出や離婚など家庭のさまざまな事情によるものとなっています。

まず、お母さんの病気(精神障害や内科系・産婦人科系・外科系疾患、ガンなど)が30.4%、両親が行方不明、あるいは家出をして子どもの養育ができない場合などが14.2%、シングルマザーなどが12.1%、次の子を出産するための利用が8.3%、離婚や別居によるものが7.9%、借金や貧困で両親ともに働かなくてはならず、養育ができない場合が6.7%、虐待あるいは父母の怠惰によって保護される場合が4.1%、お母さんが家族の病気のつきそいのため子どもを預かってもらう場合が4.1%、父母の死亡が1.6%、父母の出張・研修・冠婚葬祭などで利用する場合が1.0%、子ども自身の障害が0.9%、その他(両親ともに病気の場合やお父さんの死亡など)が8.7%となっています。



子どもが乳児院に入る理由

子どもの年齢による入所理由を調べてみると、0歳児では、シングルマザーや母子家庭といった単身家庭による問題、婚外出産や離婚・別居といった家庭崩壊が主要因となっています。1・2歳児では、次の子どもの出産や家族が病気にかかり、お母さんがつきそいのために利用する場合があります。2・3歳児では、次の子の出産のための利用が多くを占めています。



このように入所理由はさまざまです。複数の要因で乳児院に入る子どもも珍しくありません。

赤ちゃんが乳児院に入ったときのお母さんの年齢を見てみましょう。20歳未満のお母さんが全体の7.6%。20歳～25歳未満が22.4%、25歳～30歳未満が27.3%、30歳～40歳未満が33.5%です。40歳以上は4.6%、不明が同じく4.6%です。

[乳児院でくらす子どもの数](#) | [乳児院の退所理由](#) | [全国114乳児院リスト](#)



愛着障害とは何か？

エバーグリーン・コンサルタント

<http://attachmenttherapy.com/ad.html>

Copyright 1998 Evergreen Consultants in Human Behavior, LLC.

(翻訳記事提供および文責：Techbow, Ltd. 著作権者は、再々掲載および無断翻訳、無断配布を禁止しております。)

今、ますます多くの子供達が、自分達を愛し、保護し、面倒をみてくれる養育者への愛着を心に確立できず、発達させられずにいる。このような子供達は、心の健全な発達にとって最も重要な土台を作る事なしに、放置されている。こんな子供達が、圧倒されるほど多くの問題を抱え、アメリカの児童福祉体制に溢れんばかりに殺到している。社会的問題、精神的問題、発達上の問題、肉体的・道徳的問題、.....子供達はやがて大人になり、自分の子供達に同じ事を繰り返す。ある調査結果では、アメリカのハイリスクな家庭（虐待、無視、貧困、実質的虐待、家庭内暴力、両親自身に被虐待・無視歴がある、等）の80%近くに、子供達の深刻な愛着障害が生じている。アメリカでは、毎年100万件の深刻な虐待や無視事件が起こっていて、統計では、児童福祉システムが例年80万人重度の愛着障害を持つ児童に対応している。この数値には、外国から養子として貰われてきた何千人もの愛着障害を持つ児童は含まれていない。

崩壊した、不安定な愛着は、感情障害の問題や社会的障害の問題につながるばかりでなく、発達途上の子供の脳における生化学的な影響さえ及ぼす。愛撫や安心感を与えられずに育った乳幼児は、異常に高レベルのストレス・ホルモンを分泌し、それが子供達の脳と肉体の成長と発達を損なう。感情交流における無視が子供達にもたらす神経生物学的影響は、子供達の振舞いを騒がしく無規律にさせ、あるいは憂鬱、無感動、学習遅滞を起こし、また慢性病に罹りやすい傾向がある。しっかりと愛着を身に付けた子供達と比べ、愛着障害の子供達は、より攻撃的で、破壊的で、反社会的となる傾向がある。

例えば、幼児期に愛着を形成できなかった十代の少年達は、通常の3倍もの確立で暴力犯罪を犯す傾向にある。決定的に重要な最初の三年間で愛着が崩壊していると、これまで言われてきたいわゆる「愛情欠乏型精神病質 (affection less psychopathy)」につながる可能性があり、人と意義のある感情的結びつきを形成するのが難しく、慢性的な怒りや、衝動をコントロールすることが困難で、良心の呵責に欠ける傾向にある。

愛着障害は世代を超えて伝わる。養護者に対するしっかりとした愛着に欠けた子供達は、通常、成長してからも、自らの子供に決定的に重要な心の土台を築いてやれない親となりがちである。自らの子供を保護し、養育し、愛する本能に従う代わりに、彼らは虐待し、無視し、放置する。現状は、既に制御不能である。以下の事実に目を向けて戴きたい。

- ・虐待によって重傷を負った子供の数：約4倍。1986年(140,000人)から1993年(600,000人)。
- ・虐待事件数：300万件。(1995年の児童保護局による調査)
- ・深刻な虐待や無視事件で、継続する危険があると確認された事件：100万件以上。同調査は、実際の事件数はこの10倍から16倍に及ぶであろう旨を述べている。
- ・児童保護局でも、急増する虐待事件(1993年には、深刻な虐待を受けた児童は28%であったものが、1996年には45%に達する)への対処に苦慮している。

妥協的な、あるいは崩壊した愛着しか持ち合わせずに人生をスタートした子供達は、成長期に下記のような深刻な問題を抱える危険がある。

- ・自己評価が低い
- ・(他者への心理的)要求度が高い、粘着気質、虚構的独立心
- ・ストレスや逆境に直面した時の、補償作用の喪失(パニック症状、他)
- ・自制心に欠ける
- ・友情を発展させ維持することができない
- ・両親、養護者、その他の支配的人物から、疎遠になり、対立的になる
- ・反社会的な態度や振舞い
- ・フラストレーションによる攻撃性と暴力性
- ・(他者に対して)心からの信頼、親交、好意を抱くのが困難
- ・自分自身、家庭、社会に対して、否定的、絶望的、受身的な見方をする
- ・共感、同情、良心の呵責の欠如
- ・学校での振舞い、および教育的問題
- ・成人してから、自らの子供に虐待のサイクルを繰り返し、愛着障害を起こす。

幼児の愛着障害の徴候

下記は、妥協的な、あるいは崩壊した愛着しか形成されていない歩き始めの乳幼児ないし幼児に見られる行動パターンである。

- 1.愛情表現
 - ・暖かい、親愛性に満ちた交流の欠如
 - ・見知らぬ大人に対する無差別の親愛表現
- 2.快適さの追求
 - ・怯えた時、傷ついた時、病気の時、快適さを求める事をしない
 - ・奇妙な、相反する方法で、快適さを求める
- 3.援助への依存
 - ・依存心過剰
 - ・助けが必要な時、養護者を探さず、要求もしない
- 4.協力性
 - ・養護者の要求に従わない
 - ・要求過剰
 - ・強制的応諾（しぶしぶ言う事を聞く）
- 5.探求的行動
 - ・見知らぬ環境に置かれた時に、養護者がいるかどうか確認しない
 - ・養護者と離れるのが嫌さに、探求心が乏しい
- 6.自制的振舞い
 - ・過剰に傲慢にふるまう。養護者に対する懲罰的支配
 - ・養護者に対して気を使い過ぎ、また不適切な世話をやく行動をとる
- 7.反応の再結合
 - ・人と別れた後に、その対話を再現する事ができない
 - ・烈しい怒りや愛情の欠如から目を逸らせる、あるいは避ける

～参考文献（愛着障害の子供を持つ養親のHP）～

<http://www.attachment-ga.com/attach/>

RAD(反応性愛着障害)

反応性愛着障害(Reactive Attachment Disorder)とは、人間関係の形成障害です。この障害を持つ子供達は、人を愛し、愛される事ができずに苦しんでいます。このような子供達は、普通の、健全な家庭内での人間関係を、家族全員が苦しむ程に歪めてしまいます。愛着障害を持つ子供の扱いは、微妙かつ独特であり、家族全員がこれを行わねばなりません。部外者には、愛着障害を持つ子供の振舞いに対する両親の痛みと怒りが理解できないと思います。なぜなら、このような子供達は、家族以外には表面的な愛嬌を振りまくからです。人との結びつきの欠如が、他人や動物に対する信じがたいほど冷酷な振舞いという形になって現れません。

どうすれば両親は、自分達自身がおかしくなるような事にならずに、子供達が愛した愛されるようになるよう、手助けができるのでしょうか？

どうすれば精神衛生学の専門家は、両親がこのような善悪の観念のない子供達に手を差し伸べるのを助けられるのでしょうか？

私達が自分の里子達の中に発見した愛着障害は、私達を悲嘆の淵に落とし入れました。

私達はこの問題に関する多くの情報を入手し、我々の住むジョージア州の専門家達に相談した結果、この荒廃した障害の問題を抱えた私達は、最初に気がついた時よりももっと孤立しているのだと知りました。

適切な治療を捜し求めて、私達は子供達の代わって、ジョージア州政府と共に積極的な提唱を始め、その結果、子供達が回復に向けた積極的なコースを辿る事が可能になりました。

このウェブサイトは、あなたがここに記されているような症状を示す子供の親なら、あるいはこの障害についての勉強と、子供の愛着障害が解消されるのを助ける治療法の知識が必要な精神衛生学の専門家なら、ここを読めば同じゴールを目指すにあたって少しは時間の節約になる事を意図しています。

また私達は、このサイトを通してあなたがこの障害を正しく理解し、どこに助けを求めれば良いかを知るなど、十分な知識を得ていただきたいと願っています。

この理解の「ともしび」は、長い歳月をあてて献身的に問題と取り組み、愛する者との千切れた結びつきに苦しむ子供達を助ける試みの中で幾度も涙を流し、また子供の魂と格闘する親達を個人的に助けてきた多くの治療士兼任の里親達、精神科医、心理学者、ソーシャルワーカー、セラピストによって、灯（と）もさ

れました。

もし、あなたが問題行動をする子供達の親、里親、養親、心理学者、ソーシャルワーカー、後見人、弁護士、教師、その他そのような子供達のために働いているのなら、どうぞ遠慮なくこのサイトの他の情報や、国内リンク先にもじっくり目を通してください。反応性愛着障害に来るしむ子供達と、彼らを愛する家族のための助けが記載されています。

もし、あなたが精神科医、心理学者、ソーシャルワーカー、カウンセラー、セラピストであって、ジョージア州内で未解消の反応性愛着障害を患う子供に対して必要な治療を施す研修に関心があれば、やはりこのサイトやリンク先のRAD関係のサイトにじっくり目を通して下さい。「The Attachment Center at Evergreen」www.attachmentcenter.org,または「The Attachment & Bonding Center of Ohio」電話番号440-230-1960などは、すぐれた連絡先です。その他の情報源としては、ATTACH(Association for Treatment & Training in the attachment to children)www.attach.org. Call ATTACH at 703-914-3928. Archie W. Riley and M. Lisa Riley, LCSW. などがあります。

RAD(反応性愛着障害)の症状

- 1.表面的な愛嬌。自分の可愛さを利用する。
- 2.人や動物に対して冷酷
- 3.火に魅せられる
- 4.死、出血、血糊などに心を奪われる
- 5.些細な、取るに足らない状況や環境においても、(対象を)支配したがる激しい欲求
- 6.大人を操作して三角関係に置く
- 7.嘘をつく時以外、目を合わせるのを避ける
- 8.見知らぬ人への過度の親愛表現。自分の条件に合った時だけ相手の親愛を受け入れる。
- 9.わがまま(要求過剰)
- 10.冷酷な行為あるいは嘘に対して自責の念がない(無意識)
- 11.自分や他人が怪我をする危険に無頓着に、スリルを求める
- 12.自分や他人の財産を壊す
- 13.盗癖
- 14.些細な怪我にひどくびくびくするが、ひどい怪我に無頓着
- 15.友達ができない。できてもすぐ離れていく。
- 16.こそこそと振舞う事が楽しい
- 17.ばかげた嘘をつく(真実を話す方がよほど簡単なような嘘をつく)
- 18.食べ物をこっそり貯め込んだり、盗み食いをする。異様な食習慣(異食症)。
- 19.ひっきりなしにしゃべる。ナンセンスな質問を繰り返す。
- 20.実際の能力よりもテストの成績が悪い
- 21.話し言葉や言語の問題。怒った時以外は、口の中でもぐもぐと呟く。
- 22.全般的な発達遅れ
- 23.肉体的、性的に虐待を受けた。また生後1年以内に無視された。
- 24.生後1年以内の養護者が複数であった
- 25.要求が多い、しつこい
- 26.両親がいつも怒っているように見える
- 27.原因と結果を考えない
- 28.衝動的

RAD(反応性愛着障害)の考えられる原因

- 1.生後数年の、深刻な虐待と無視
- 2.生後1年以内に、複数の養護者
- 3.治療していない複数の耳の感染症など、深刻かつ回復していない痛み
- 4.産まれた時の保育器などを含む、生後1年以内の入院治療
- 5.生後1年以内に、母親あるいは第一の養護者が入院した
- 6.複数の里親を移動した。養子縁組の不調。あるいは、縁組に成功したとしても、それ以前に不調を経験している。
- 7.母親の妊娠に対するアンビバレンス(両面価値、葛藤の感情)
- 8.生後1年内の、お粗末な育児技術

RADの症状は、他の障害の症状と重なったり、また並存したりするので、完全な診断のためには、両親は

適切な訓練を積んだセラピストに相談することが大切です。訓練を積んだ専門家がRADを診断するのに役立つツールとして、ランドルフ愛着障害質問表 (Randolph Attachment Disorder Questionnaire) があります。この質問表とその記入方法を説明したマニュアルを必要とするセラピストは、以下の出版元に連絡してください。(The Attachment Center Press, P.O. Box 2764, Evergreen, Co, 80437-2764)

この質問表は、適切な訓練を積んだ愛着障害のセラピストだけが、診断過程において他のツールと併用して使うべきものです。適切な訓練を積んだ愛着障害のセラピストについては、このサイトのリンクをご覧ください。

最新の調査による養子・里子の愛着障害

「幼児期のトラウマが心の絆を阻害する」

著者：トーリ・デアンジェリAPA(アメリカ心理学協会) モニタースタッフ

<http://www.apa.org/monitor/jun97/trauma.html>

(Copyright 1997 by the American Psychological Association. APA (アメリカ心理学協会) 翻訳・再掲載許可記事。翻訳の質についてはAPAは責任を負わない。またAPAの文書による合意なくして、本記事の再再掲載ならびに配布を行ってはならない。)

愛着問題の研究者が特に興味を持つ質問をすると、養子となった子供達は答えに窮する。なぜなら、彼らの背景は時に、虐待や無視、またある時は完全な養育放棄という特徴があるからだ。しかしそれは同時に、行動科学者が、幼児期の敵対的な条件下でいかに愛着障害が形成されるか、また後のケアによってこのような子供達が人間関係を築く能力にどのような影響が生じるか、等を検証する機会を与える事にもなる。

最近のある研究で、サンフランシスコ・ザビエル大学の心理学者、キム・チショルム博士は、産まれて数ヶ月で孤児院に收容されたルーマニア人の子供達を調べた。その子供達の多くは、その実母、あるいは継続的な養護者と全く接触することなく、病院から直接施設に送られている。

養子となった年齢がこれらの子供達にどのように影響するかを考察するため、チショルム博士は、研究対象の子供達を3つのグループに分けて比較観察した。

- ・養子になるまで、最低8ヶ月は孤児院に收容されていたルーマニア人児童のグループ(46人)
- ・月齢4ヶ月になる以前に養子となったルーマニア人孤児のグループ(30人)
- ・年齢と性別を被験者のルーマニア人児童に合わせた、カナダ生まれの、養子ではない子供達(46人)。

チショルム博士の研究は、2部構成となっている。一つ目の部分は、養親達への集中的なインタビューで、子供達が3才の時に一度、さらに4才になった時にもう一度。いま一つの部分は、子供達が4才の時の親子の相互影響に関する実験である。

相互影響に関する考察

実験のある段階で、チショルム博士は、子供達が下記のような状況の時、どのように振舞うかビデオに録画した。

- ・両親がいる時
- ・両親が不在で、見知らぬ人間が一人いる時
- ・見知らぬ人間が帰った後、両親が戻った時

ビデオは、遅い年齢になって養子となった子供達が、他の二つのグループよりも、より不安定な愛着パターンを示す傾向を明らかにして見せた。このグループは特に、他の二つのグループが示したより典型的な不安の愛着スタイルと違って、異常な、烈しい、非定型的な形態の愛着を示した。

この非定型的なスタイルの愛着表現を示した比率は、非養子の子供達が17%、早期に養子となったルーマニア人児童が11%、遅い年齢で養子となった子供達は52%であった。

二つの定型的な不安愛着表現とは、(1) 防御的ないし不安定、(2) 高圧的ないしアンビバレント(合矛

盾する感情、両面価値)である。不安定な幼児は擁護者を避ける傾向があり、感情を表さず、養護者がその場を離れるとよりリラックスするよう見える。高圧的な幼児は、養護者がその場を離れると悲しそうになり、彼らが戻ると、自分を放っておいてどこへ行ってた、という怒りを表す。また多くのルーマニア人児童が示した非定型的スタイルの愛着表現は、上記の二つの基本的主題の変形である。

その中には、「子供が親を世話しているように見える」非定型的な不安定タイプ、「子供が防御的態度と高圧的態度を交互に繰り返す」防御-高圧タイプ、「取り止めのない、なんでもあり式行動」の包括的な不安定タイプがある、とチショルム博士は言う。

博士はさらに続けて、「養親へのアンケートでは、遅くに養子となった子供達はまた他の二つのグループと比べて、最近、愛着障害判定基準として使われている無差別的な友愛表現において高い指標を示した。このような子供達は、養護者の期待に反して、何の警戒心もなく見知らぬ大人に話しかけ、抱きつき、キスさえしようとする。」

この行動は、人間関係の中でアイデンティティを形成するための基本的な養育者を持ち得なかった結果であると断定されている。この空白を埋めるため、子供達は、優しいような人物なら誰にでもくっついていく事になる。

子供が養子となった年齢についての考察に加えて、チショルム博士はまた、子供の愛着パターンに影響を与えたと思われる別の二つの要素を考察した。養親の特性が一つ、いま一つは子供が例えばどれくらいの期間孤児院にいたか、というような施設での生活状況、あるいは養子となった時の身体的条件である。

博士の調査によれば、愛着が不安定なルーマニア児童の養母の多くは、愛着の安定した子供達の場合より、低レベルの教育しか受けておらず、社会経済的に低い地位にあった。同調査の対象となった養親の中でも、このような親は他の親より多くのストレスを訴えた。

チショルム博士にとって、この調査結果は一種の出口のない、無限の環を表している。そこでは、愛着不安定の子供は、どうやって助けを求めれば良いかを知らず、また既に危険な状態である親は子供の行動によってよけいストレスを増大させていく。この親のストレスに対して子供はまともに反応せず、かくしてこの繰り返しが延々続く。

さらにチショルム博士が調査した所によると、施設の変数(施設毎の差違)自体は、子供が愛着不安定となるかどうかを占う要素ではない事が分かった。「それよりも、(親子の)相互影響の効果が作用して、つまり、初期の愛着不安定と後期の子育てによる変数が結合し、現在の愛着障害の問題を悪化させている」と博士は語る。

問題を難しくしているのは、はたして誰なのか?

デラウェア大学のメアリー・ドジエール博士とK.チェース・ストーバル博士が、チショルム博士やその他の愛着障害研修者の調査結果を意義づける可能性のある研究を行っている。

研究の詳細は、10組の養母とその幼児の日常生活における相互作用の分析である。調査の結果、月齢8ヶ月以上の年齢になって養子となった幼児達は、例え養母が安定した愛着スタイルを取っていても、最も多く愛着障害の問題を起こした事が分かった。これまでの調査では、愛着の崩壊した乳児は6ヶ月から8ヶ月の時に問題を起こすとか、1歳の時に始まるとか推定されていた。

同研究チームは、養母達に育児日記をつけてもらうようにし、悲しい出来事に対する幼児達の反応と、その悲しみに養母達がどう対応したかを記録させた。また同チームは養母達の育児スタイルの格付けを、養母自身の未解決な喪失感やトラウマに応じて「自主的・安定的」、「冷淡」、「不安定・危ない」の三つに分けた。

この6ヶ月から1歳6ヶ月の乳幼児達は、養子になった年齢が高ければ高いほど、より烈しい愛着障害の問題を示した。母親が「自主的・安定的」と判定された場合でも、である。

ドジエール博士とストーバル博士はさらに、いかなる状況であれ、例え子供達が自分を避けようと、かんしゃくを起こそうと、やさしく対応してきた母親の子供は、最も安定した愛着を示す事を発見した。「そんな母親の振舞いは、子供達にとって一種の治療として作用するのです」と、ドジエール博士は語る。

児童問題研究者である、バージニア大学のロバート・ピアンティ博士は、このドジエール博士の研究と実験を、長らく求められてきたものとして、賞賛している。

養母と幼児の日常生活における相互作用、あるいは初期の愛着障害と後期の養護スタイルが交差する点に

ついでの評価や研究は、まだ端緒についたばかりである。

ドジエール博士は語る。「調査が明らかにした事のひとは、(養親は)安定した人物である、というだけでは不十分なのです」

養子縁組を決意するまでに知っておくべき事

Copyright 1997 The Attachment Center at Evergreen(翻訳記事提供および文責: Techbow, Ltd. 著作権者は、再々掲載および無断翻訳、無断配布を禁止しております。)

はじめに

人はとかく、人生の重要な出来事や祝事を理想化する。結婚、子供の誕生、長期休暇などについて、幸せいっぱいという思い入れやイメージを抱き、起こり得る困難、挫折、失望といったようなものは、えてして見過ごしがちである。養子縁組も同様で、うまくいく縁組もたくさんあるが、そうでない場合もまた多い。

人は、多くの理由で養子縁組を考える。理想的な養親は、居場所のない子供に育成の場を与えるという欲求と、自身の子育ての欲求との間に合理的なバランスを保つ。しかしながら、子供に育成の場を与えるという欲求の範囲から逸脱してしまうような問題が数多くある。それに対して、養親の心に浮かぶ最初の疑問は、恐らく次のようなものであろう。

「なぜ、そういう欲求だけでは不十分なのか？」

特殊な欲求を抱える子供達

アメリカには落ちつき先のない子供が65万人存在する。そのうちの約20%(13万人)の児童が養子縁組可能である。その養子可能な子供達の多くが、特殊な心理的欲求を抱いている。しかし、養親達は往々にしてこの養子達が家に持ち込んでくる実際の、あるいは潜在的な問題に気づかない。なぜなら、まず養親自身があまり聞こうとしないからであり、またケースワーカー達も往々にして関連情報を知らないでいる事が多いため、養親はふと気づくと自分達が対応する準備もできていない悲劇的な状況に置かれていることを知る。特殊な欲求や高いリスクを抱えた子供を育てる準備が出来ていないのに引き取ると、無駄な労力や経費を費やし、家族に甚だしいストレスをかける事になる。うまく行っている養子縁組も沢山ある反面、推定によれば、情報不足、準備不足が理由で、アメリカの養子縁組の半分が不調に終わっている。養子に出る子供達の多くが、その生家、里親のケア、複数の里親宅のたらい回し、あるいは肉体的、感情的、性的虐待によるトラウマを抱えている。養親は、しばしばこういう言葉を聞かされる。『この子が必要としているのは愛です。愛さえあれば、全てうまくいきます』

これは間違いである。

国の機関を通してであれ、民間エージェンシーを通してであれ、養親は注意深く、かつ、「夢に描いてきた愛くるしい子供」の幻想を捨てて、現実的な見方をする必要がある。

多くのローカルTV局やローカル紙や会報などで、毎回2、3人の子供達を取り上げて、養子縁組を促進する番組や記事が流されている。例えば二人の5歳児にスポットライトが当てられ、次のようなコメントが付けられたとする。

「この男の子は5歳児としては大柄です。自分が何がしたいのか良く分かっています。バスケットボールが大好きです。おもちゃの車やトラックで遊ぶのも好きです。毎晩寝る前のお祈りも欠かしません。」

あるいはまた、

「この女の子は、担任の先生によれば、明るく、行儀の良い少女です。歌ったり、踊ったりするのが大好きです。」

しかしながら、このふたりの5歳児について真に注意を払うべき対象は、次のような履歴の方である。

「この男児は、3人の兄弟姉妹ともども実母に育児放棄されて後、月齢5ヶ月で最初の里親の養育を受けた。以後、5軒の里親宅と1軒の親戚宅に措置された。その後、兄弟姉妹が生家に戻ったにも関わらず、この子は戻れなかった。実母が、彼がなつかないという理由で受け入れを渋ったからである。」

あるいはまた、「受け入れ家庭は、この子のADHD(注意欠陥多動性障害)および愛着障害に対処できる能力が必要。」

さらに別の例として、

「この女兒は、人の関心を引きたがる。また、常に監督している必要がある。現在、セラピストが、過去の虐待の影響を治療中。大人からの指導や育成を受け入れる事も学習中。巧みに犠牲者を装い、自分ののでかした事でも人を責める習癖がある。」

愛着とは？

実父母であれ養父母であれ、親であれば子供の愛着の成立プロセスをできるだけ詳しく知っておかねばならない。驚くべきことに、子供達の愛着成立過程の重要性や、その生涯にわたる影響について理解している親は非常に少ない。優れた参考文献として、愛着の概念と重要性についての基本的な概要を述べたジェロミー・ホームズ (Jeromy Holmes) の1993年の著作「ジョン・ボウルビーと愛着理論 (John Bowlby & Attachment Theory)」および当センターによる1995年発行の「子供達にルーツを与えよ。しかる後、飛び立たせよ (Give Them Roots, Then Let Them Fly)」などがある。

殆どの動物にとって愛着とは、生殖、養育、庇護、給餌、生存環境の学習等と同じく、種の存続のために必要な、基本的かつ生物学的過程である。愛着は、血圧や体温を制御する生理的調節機能と同様、えてして見過ごされがちな機能である。愛着のプロセスは、子供の人生の最初の数ヶ月からその形成が始まる。親子の絆を発達させる過程で、当の子供にとっての愛着プロセスとは、養育者 (母親とは限らない) の養育プロセスとの相互影響作用である。より簡潔に言えば、それは幼児に安全と安心感を確信させ、接触、見つめあい、微笑み、身振り、あるいは食物など、幼児の人間らしい欲求を満たすためのプロセスである。

「乳児や幼児はどんな事があっても容易に回復して、その影響が後にひくような事はない」と信じている人がいまだに数多くいる。この誤謬が元で、これまで乳幼児に対する多くの有害な考えや行動が生じてきた。

乳児が生後一年の間にどれくらいその欲求を満たせたかという要素は、身体のみならず精神的にもその後の発育に多大の影響を及ぼすのである。乳幼児の欲求を満たしてやる経過こそ、その子供が養育者に対する感情 怒りか幸福か、絶望・無力感かそれとも期待か、満足か不満足か、信頼か不信か----を決定するのである。子供は自分の生きる世界が安全な場所か否かを理解し始める。その事について、子供は生後1年頃には50%は理解し、2年も立つと、その後の全人生で知る事の75%は学んでしまうと考えられている。その学ぶ内容には、どうやって人との関係を持つか、いかにして世界に適合するか、あるいは人生において外部・内部から及ぼされる影響をどう自制するか、というような事が含まれる。

それが安心から来るものか不安から来るものかに関わらず、子供達は愛着行動を発展させていく。不安から来る愛着行動は、その行動パターンによって、アンビバレンツ【訳注：両面価値。二律背信的心的反応】、回避【訳注：不快な刺激をうけまいとする逃避的行動】、あるいは失見当・混乱と判断されてきた。このような愛着行動のパターンは、子供の育成環境でどのような事が起こったかによって大きく違ってくる。それでも子供達はどんなレベルにおいても、例えトラウマのある状態でも、愛着を行う能力を持っている。精神外傷を生じさせた出来事・状況は子供の安心感の土台を損ない、また逆に、親による治療的教育は安心感の土台の損傷を修復させる事ができる。そのような愛着行動が連続機能とみなされる一方、不確実な愛着を身に付けた子供は、その多くが自分自身あるいは他者に対して極めて破壊的な行動をとることは明らかである。適切な知識がなくては、最初、このような行動は必ずしも明白には分からない。

あなたは、特殊な欲求を抱えた子供を養子にする事はできるが、それを決意する前に、あるいは将来に対処するために、適切かつ十分な情報を得なければならない。

ファンタジーボンド (空想のきずな)

例えば、あまり表面に出てこない問題の中には、「ファンタジーボンド」と呼ばれるものがある。この問題は、実父母についてはっきりとした記憶を持たない子供に生じる。このような子供達は、実父母が子供の居場所を知ったら必ず迎えに来てくれるという類の希望、夢、空想を持ち続け、また実父母を探し出す熱望を抱き続ける。

その結果、子供達は、自分達の「本当のママ」、自分たちを生んでくれたママのために、愛を残しておかなければならない、と確信するに至る。このような傾向が、子供達の愛情表出の無さとなり、...それが、養子縁組あるいは里親への措置を次々と不調にさせる契機となり、不調となって見捨てられた思いが憤激とやり切れなさになり、またそれが、自分達を本当に愛してくれるのは実父母だけだ、という信念を再確認させる事となる。

実父母の深刻な虐待や無視を記憶している子供であっても、後にはしばしばこの実体験を否定し、実父母との密接につながっているという感情を空想で創り出してしまう事がある...、その結果子供達は、虐待、無視、放置といった実体験を、何か自分達が悪いことをしたのが原因で、自分達が悪かったためだと捉え、心

の奥深くにしまい込んでしまう。

もし実父母の元に戻れたら、その時自分達が良い子にしていたら、きっと自分への愛情が取り戻せる、と子供達は夢想する。

養子縁組を成功させるために

あなたが養子縁組を成功させるためには、全ての必要な情報を知らされ、かつ、可能な限りその対処を準備する必要がある。養子縁組業務に携わる人々が万事心得ている、などと思い込んではいならない。関連する書物は、読める限り読むこと。疑問があれば全て問い質すこと。利用できる情報源は、悉く利用すること。

なぜなら、あなたの決断はあなただけでなく、あなたが家庭に入れようとしている子供も巻き込む重大なものだからである。

下記の質問やチェックリストは、あなたが関係者に、あるいはあなた自身に問いかけるべき問いである。それは全てではない。ただの始まりに過ぎない。

【あなた自身への問いかけ】

- ・愛着のプロセスや親子の結びつきについて、完全に理解しているか？
- ・不安定な愛着や破綻した愛着を体験してきた子供の重大さを理解しているか？
- ・子育てに必要な親としての心構えを十分に調べたか？
- ・養子にしようとしている子供がどんな子供であるか知っているか？
- ・子供について適切な質問ができるだけの十分な知識があるか？
- ・養子縁組をする前に、縁組以降何か問題があった場合に頼りとする機関とつながりを持っているか？
- ・将来起こり得る問題に備えて、縁組前・縁組後のカウンセリングに出席する忍耐があるか？
- ・もし養子に心理治療や在宅治療が必要となった場合、その費用をまかなえる財源があるか？

【斡旋機関やケースワーカーに問うべき質問】

- ・その斡旋機関は、縁組の完了する前に、積極的に全ての子供の記録を公開する予定か？
- ・対象児童がこれまで措置されていた里親や養親宅の養育環境はどうだったか？
- ・対象児童の履歴はどうか？
- ・対象児童は、どんな虐待（物理的、感情的、性的）を受けてきたか？
- ・対象児童は、どれくらいの期間、里親の養育を受けてきたか？どんな養育か？
- ・対象児童は、生まれてから何度措置先を変更させられてきたか？
- ・対象児童が持つ顕在的、潜在的問題は何か？
- ・もし縁組後に問題が生じた場合、どのような調停機関が利用可能か？

縁組前に養親が知っておくべき事については、Keckand Kupecky 著の「傷ついた子供との養子縁組 (Adopting The Hurt Child)」、特に第六章「夢と現実 (Dreamsand Realities)」に詳細が書かれている。

【愛着障害の徴候チェックリスト：ゼロ歳～1歳】

- ・生後6ヶ月たっても、主要な養育者の顔を認識していないような様子は？
- ・発声することがめったにない。あるいは、延々と発声し続ける。
- ・ハイハイ、高足ハイハイ、お座り等のそれぞれの段階で遅れがないか？
- ・抱かれたり触られたりすると抵抗したり、嫌がったりしないか？硬直したり、身を硬くしたりする。
- ・過剰なほど騒ぎ立てたり、苛つく。
- ・無力、言いなり、引きこもる。
- ・筋肉に張りがない。筋肉がだらっと弛緩している。

【愛着障害の徴候チェックリスト：1歳～5歳】

5歳までに、家族間のマニピュレーション（人心操作）、ごまかし、家具などの破壊、屋内での火遊び、ペットへの暴行、頻繁な虚言などを示す可能性がある。

- ・見知らぬ人にまで、無差別の親愛表現を行う。
- ・自分の欲求通りに相手を支配する形で、相手の好意を要求する。
- ・ひどくしつこい、または、いつもメソメソしている
- ・物事に固執し、いつも不機嫌で、時には自制心を失うまでに怒りがエスカレートする。
- ・不快感の域値が高い。暑さ寒さに鈍感である。顕在的な苦痛を感じることなく、出血するまで傷口やか

- さぶたを突つつく。
- ・抱かれるのを嫌がる。
- ・他の人と一緒にないと、何かまともな事に没頭することができない。
- ・自分が望まぬ限り、主要な養育者と少しでも離れるのを嫌がる。
- ・言語能力の遅れ。またはエンジンを体に付けて動き回るような、唐突な、ギクシャクした動作（モーター・コーディネーション症状）。しょっちゅうケガをする。
- ・顕性の活動亢進（過剰なほど動き回る）

【愛着障害の症状チェックリスト：5歳～14歳】

- ・表面的には愛想良く、チャーミング。人に自分の望む事をさせるために、自分のキュートさを利用する。親と目を合わせるのを避ける。人と話していても、目を合わさない。
- ・見知らぬ他人への見境のない親愛。
- ・親には親愛を示さない(抱かせない)。自分がいつ、どのようにされるのか知っていて、自分の思うようでない、抱こうとする親の親愛を拒絶し、押しのける。
- ・自分自身、他人、物に対して破壊的。ケガをしやすい。わざと人を傷つけたり、物を壊したりする事を楽しんでいるように見える。
- ・動物に対して冷酷（しょっちゅう、いじめたり、暴行したり、拷問したり、儀式的なやり方で殺したりする。）
- ・盗癖：家の中で、確実にばれる事が分かっているやり方で、両親、兄弟から盗む。
- ・虚言癖：これという理由もなく、明白な嘘をつく。
- ・衝動を押さえる事ができない。（しばしば活動亢進の行動をとる）：非常に反抗的であり、怒りっぽい。生活のあらゆる出来事を支配したが。他の家族に対して、傲慢な態度をとる傾向がある。何かを頼まれたら、長々と口ごたえする。
- ・学業の遅れ：実際の能力よりも低い点数をとる。
- ・原因と結果を考えることができない：自分の何かの行動で、人が怒ったりすると驚く。
- ・良心の呵責の欠如：他人を傷つけたり、物を壊したりすることに無頓着。
- ・食物を貯め込む、あるいはがつつと食べる：異食症。（紙、接着剤、塗料、メリケン粉、ゴミ、等）
- ・対等の人間関係ができない。：友達ができそうになっても、自分の傲慢な振るまいによって、1週間も続かない。
- ・火、あるいは血に魅せられる。：火、血、あるいは病的な行為に魅せられる。
- ・執拗な問いかけ、あるいは絶え間のないおしゃべり。：無意味な質問を繰り返し繰り返し聞いたり、絶え間なくしゃべり続ける。
- ・極度な要求過剰あるいはしつこさ：人の注意を引こうとして、頼むと言うより、しつこく要求する。何かが欲しい時は、しつこいか、あるいは親愛を示す。
- ・異常な話し方：その他の、より深刻な症状と平行して現れ、それが更に普通でない話し方を昂進させる。
- ・性的アクトアウト（抑圧感情の無意識の表出）：仲間あるいは大人への性的挑発、あるいは人前での自慰行為、などの可能性。

養子縁組を成功させる要素

（出典：McKelveyand Stevens「養子縁組の危機」、1993年刊行）

- ・年齢。（年齢の高い子供達は、養家に馴染むまでに長く、辛い時間がかかる）
- ・里親への措置変更の回数。（あまり多いと、子供達にトラウマを与える）
- ・子供が福祉システムに組み込まれた段階で、直ちに終生プランを立てること。
- ・家族の強さ、技量を評価でき、移転を容易にする措置業務。
- ・養親と養子の適切な相性の調整
- ・子供の履歴の全面的情報開示、また不調のリスクについての現実的な評価
- ・問題が危機と化す前に、措置後の調査を行う事。
- ・特殊な欲求を抱えた子供の養子縁組においては、養親への研修とサポートを、子供が思春期を過ぎるまで継続して行う。



アン基金通信

第 10 号
発行 2002年
3月 31日
アン基金PROJECT

春のご挨拶

代表 村山 水穂子

東京がひと月前なら、同じ県内でも平地では半月前と、桜前線の知らせのようにして、ようやく私の住む山里にも都会よりひと月遅れの春が訪れました。家の前の花壇には福寿草や寒水仙の花が咲き出して、長かった冬を過ごしたごぼうびのように目を楽しませてくれます。でも、先月上京した折に、街の至るところで咲いていたサクラ草は、遅霜に用心してか、まだちぢれた若葉を4センチ程のぞかせているきりで、山里の春は名のための寒さの中にいます。

そんな気温差のある山の林道に、群馬に移った年から蒔きはじめた花ダイコンが日なたでは見事に咲き誇っていて、鮮やかな紫の花が冬枯れの残る林道を彩りはじめました。家の前の畑に15株ほど咲いていた花ダイコンの種から始めたものです。最初の年は、何度も降雪と除雪車に押しやられた雪に埋まってしまい、ほとんど発芽せずに終わってしまい悲しんだものですが、懲りずに蒔き続けて4年目に入った今年は暖冬のおかげで当初の10倍以上も増えて労に報いてくれました。そうなるには、毎年雪がすっかり消えた2月下旬から見当をつけて蒔いた個所の見回りを始め、黄緑色の特徴ある小さな若葉がのぞきだした個所を見つけては、落ちていた杉の枯れ枝や厚く積もった落ち葉を取り除いたり、石だらけの隙間からかろうじて生えだしているものには土をかけて歩くなどしていました。

一年草の花ですから、その成果を見るには時間がかかりませんが、5年、10年とかけていつの日にか山の頂上近くの私の家までの道しるべにしたいと目論んでいます。その他にも、同じようにして夏のシュウカイドウ、秋のアザミと季節を追って支度するこの仕事は誰に頼まれた訳でなく、一銭にもならないものですが、こんなことをする人間がいてもいいのではないかと自己満足して林道を歩いています。この地ではクリーン運動と呼んで休耕地や沿道に花の苗を植えるなどの活動をしていますから、一人、独りのクリーン運動、ひそやかな名所づくりしている物好きな暇人、ケアステーションのあるじのこの頃です。

育児に疲れた人、仕事で疲れた子どもたちの訪れを待つ間に、都会とは違ったゆったりと流れる時間の中に花をそえて案内したいと支度しています。

前口上が長くなりました。おかげでアン基金Pも年毎に活動内容が濃くなり、着実な歩みとなってまいりました。半業半遊?の田舎時間にどっぷりひたっている代表をよそに、次々とアイデアを打ち出し、即実行に移していった事務局の坂本、会計担当の杵淵両氏をはじめとしたメンバーのめざましい活動に支えられた年月でした。政治の世界では見られない、清らかな会計管理のもとに心をひとつにして活動するメンバーの姿を誇りに思っています。迎える新年度が更に充実し、実りある内容になるよう努め、支えて下さる皆様方のお心に添えていきたいと願っています。

第10回 アン基金PROJECT主催
Dr.ヘネシー澄子「里親学級」連続講座 第2、3回
第2回 2001年11月18日(日)午後2時～4時30分
第3回 2002年 2月 3日(日) 同上
東京ウィメンズプラザ1階視聴覚室及び第1会議室
後援: 東京都養育家庭連絡会

「里親学級」と名乗って始まった連続講座でしたが、予想以上に、子どもに関わる専門的な方々の受講が、会を重ねる度に多く、社会の趨勢、関係者の熱い思いを、新たに感じています。ヘネシー先生もそれに応じて、講義後の各質問にも良く答えて下さり、それがまた、聴衆にとって、実体を知るまたとない好機会になりました。

特に第3回は、ワークショップ形式で、マクロに見て今の日本社会で改革していくべき点を、参加者がグループに分かれて討議しました。2年後に控えている児童虐待防止法などの改正をターゲットとして、青少年特別委員会に要望を出していこうという結論になりました。

第2回 愛着障害 (講演最後に、CBSテレビのビデオで Holding Therapy を映写)

最近のアメリカ事情

第1回にお話した1997年法律制定時より、現在は4年経過して、アメリカでは次の新しい動きが出ている。

- 1) 年令の近い実子と里子の関係は難しい。実子がある程度育ち上がったような家庭を里親に選ぶ。
- 2) 被虐待児に今まで関わっていた全ての人々 祖父母、伯父叔母、保母、教師など に集まって貰って、出来るだけその中から里親になってくれる人を選ぶ。それから、その人に専門里親と同じ研修・訓練を施す。
- 3) 片や虐待をしている実親の教育を、専門に訓練を受けた資格者・ケースワーカーが契約を結んで行く。怒りのコントロール 子どものしつけ方 里親宅を一緒に訪問し、子どもへの接し方を学ばせる。
- 4) 専門里親は実親をも教育する。実親の状態を的確に判断し、ケースワーカーに伝える。里親の意見は重視される。

被虐待児はPTSDからうつ状態になる。そこから更に愛着障害に入っていく子がいるが、どの子が愛着障害に進んでいくのか、の研究はいまだはっきりわかっていない。愛着障害は暴力・非行の原因になっていることが多く、一番手に余って、周りの者はどうして良いかわからない。

日本の実例

朝日新聞の相談記事「自己中心児？」

概略「私の長女は9才。好きな時に起き、好きな時に食事をする。たしなめると暴力をふるう。私がかわいがっている次女をいじめる。平気でウソをつく。他の人にはとても良く対応するので、私が悪いことになっている。長女が生まれてすぐ、私は病気で暫く入院した。私はどうしたらよいでしょうか？」

この事例の問題点は何処にあるか？日本の先生では、その子が自己中心児だから、という答えになる。そうではなくて、母と子の関係に問題がある。その原点は、生まれて直ぐ、母子が分離したことにある。「私はこんなに苦しい思いをして産んだのに、こんな子で悔しい」と長女を疎ましく思っている。同じお母さんなのに、姉妹でちがう。母の不安が赤ちゃんに直ぐ現れる。この子は、完全なる愛着障害である。

子どもの成長とは

赤ちゃんはニーズを泣き方で表す。それを理解してお母さんはニーズに答える行動をする。それによって赤ちゃんは満足し安定する。そして母(保護者)に信頼感を持つようになる。ニーズに答える人がいないと、人間に対する信頼感ができない。乳児院では個別化ができるだろうか？

このようにして、信頼している保護者のいやがることをしないようにしましょう、という良心が芽生える。ある一定の人と信頼感を持てるようになる、すなわち人見知りをするようになるということは、その人と愛着関係ができたことになる。

愛着障害

ルーマニアでは、共産主義体制時代、産めよ増やせよでたくさん子どもができた。その子ども達を施設で大勢一緒に育てた。その子どもたちの中から、養子に引き取って、分かったことがある。人見知りをしない子はかえって危ない。無愛着の子は、愛そうとすると、それに反発したり、噛みついたり、暴力をふるったりする。

愛着関係の段階

1. 安定した愛着関係 相思相愛、とても大切、その子の潜在能力を發揮できる
2. 不安定な心配に満ちた愛着関係 愛着関係を持っているが、それが不安定
3. 矛盾した愛着関係
4. 無愛着、逃避的愛着関係 誰とも愛着関係を持っていない
5. 不穏当な愛着関係 虐待など

子どもでも親の示す愛情に無反応な子がいる。こういう子は、目を合わさない、笑わない、抱かれると体が固くなる。すると、お母さんは嫌われて居るかと不安になって、神経質になる。赤ちゃんに直ぐ不安が伝わり、益々不安定になる。このような場合には、1才までに介入してよくしていく。

子どもに対するメッセージが一定しないと、子どもに自制心がなくなる。すると、親と子でコントロール(支配)の競争が起き、エスカレートしていく。子どもの年齢が上がってくると、暴力などが外に出て、非行などとなる。

愛着障害の徴候

- * 赤の他人に恐怖心なく接近し、上辺だけの愛嬌と親しさを見せる
- * 衝動や刺激に対して自制が効かず、過激行動児と診断されやすい
- * 母親や自分に対して権限を持つ人に、慢性的、そして間断ない抑圧関係を起こさせる(子どもが親を、親が子どもをコントロールするのかの戦いになる)
- * うそをつくのが当たり前になる
- * 火付けなど、自己や物体に対して破壊的行動を取る
- * 動物や自分より小さい子どもに対して、攻撃的で怒りっぽく傷害を与える
- * 同じ年代の子どもたちと、長期に渡る人間関係を築くことができない
- * 学習障害児、言語障害児、運動神経障害児などの診断を受けやすい
- * 間断なくしゃべったり、まつわりついたり、なかなか座ったり寝なかつたりせず、いつも注目を引いたり、注意されるような行動を取る
- * 親が率先して示す愛情を受け入れないので、触覚防御児と診断されることがあるが、自分が欲する時は、人に平気で不穏当なやり方でさわったり、触って欲しいと要求する
- * 食べ物に難点を示す。隠してためたり、暴食したりする
- * 自分に近くない人には正常な態度で接近するので、三角関係を引き起こしやすい。先生や医者には、両親に対するのと異なる態度を示すので、両親の方に問題があると見られ非難されがち
- * 自分の行動に対して責任を持たず、後悔や自責の念に欠け、良心が欠如している。自分のしたことに対して他人を責め、責任を転嫁し、ひどいときには、親を児童虐待したと訴えたりする

(テープ起こし文責 編集部)



2002/11/03 下野新聞

3歳女児殴り死なせる 宇都宮の里親の女を逮捕

宇都宮中央署は三日、里親になり育てていた女児を殴り死なせたとして傷害致死の疑いで宇都宮市日の出二丁目、韓国籍の無職女性・李永心容疑者(43)を逮捕した。

調べによると、李容疑者は三日午前一時ごろ、宇都宮市の民間乳児院から引き取った大沼順子ちゃん(3つ)が泣きやまないことに腹を立て、自宅で顔などを手で数回殴り死なせた疑い。

順子ちゃんがぐったりしたことから、日本人の夫(43)が救急車を呼び病院に運んだが、間もなく死亡した。順子ちゃんの全身にあざがあったことから、同署は、李容疑者が以前から虐待を繰り返していたとみている。

李容疑者は、夫と順子ちゃん、順子ちゃんより先に里子として引き取った男児(4つ)の四人暮らし。

栃木県中央児童相談所は、男児を一時的に保護する方針を決めるとともに、順子ちゃんが七月に引き取られた経緯などを調べている。

2002/11/03 読売新聞ニュース速報

里子の女児虐待？死なす...母逮捕

宇都宮中央署は三日、3歳の里子の女児を殴って死なせたとして、韓国籍の宇都宮市、無職李永心容疑者(43)を傷害致死の疑いで緊急逮捕しました。

女児の全身に多数のアザがあり、警察は、李容疑者が日ごろから女児を虐待していた可能性があるかとみえています。

2002/11/03 読売新聞ニュース速報

虐待の母？宇都宮で里子の女児殴り死なす

栃木県警宇都宮中央署は三日、3歳の里子の女児を殴って死なせたとして、韓国籍の宇都宮市日の出2、無職李永心容疑者(43)を傷害致死の疑いで緊急逮捕した。同署では女児の全身に多数のアザがあったことから、李容疑者が日ごろから女児を虐待していた可能性があるかとみて調べを進めている。

調べによると李容疑者は三日午前1時ごろ、里子の沼順子ちゃん(3)の顔などを手で数回殴り、死なせた疑い。李容疑者の会社員の夫(43)が様子がおかしいのに気付き、救急車を呼んで、ぐったりしている順子ちゃんを同市内の病院に運んだが約1時間後に死亡したという。

李容疑者は「泣きやまないの腹が立って殴った」と供述している。

順子ちゃんは今年7月、同市内の乳児院から里子として引き取られ同容疑者に育てられていた。李容疑者は夫(43)長男(4)と亡くなった順子ちゃんの4人暮らし。

乳児院から里子として引き取った女の子(3)を殴り死なせたとして、栃木県警宇都宮中央署は三日、宇都宮市日の出2丁目、韓国籍の主婦李永心(リ・エイ・シン)容疑者(43)を傷害致死の疑いで緊急逮捕した。李容疑者は「泣きやまないの腹が立った」と供述しているという。県警では、女の子の全身にあざがあることから、以前から虐待があった可能性があるかとみて調べている。

調べでは、李容疑者は三日午前1時ごろ、自宅のアパートで、7月に宇都宮市内の乳児院から引き取った大沼順子ちゃんの顔を素手で数回殴り、約1時間後に死亡させた疑い。家にいた夫が119番し、順子ちゃんを病院に運んだ。不審に思った病院から、県警に通報があった。

死因は外傷性の急性硬膜下血腫。暴行によるものとみられ、遺体の腕や脚などには多数の古いアザがあった。県警は、李容疑者が虐待を繰り返していたとみて調べている。

順子ちゃんを李容疑者に養育委託した県中央児童相談所によると、委託した7月以来の家庭訪問を1日にしたときは円満そうだったという。李容疑者は日本人の夫(43)と01年9月、「子どもが出来なかったから」と里親になることを県に申請。同年12月に順子ちゃんの兄(4)を引き取った。

同相談所は今年3月、「兄と妹そろって生活した方がよい」と考え、李容疑者夫婦に順子ちゃんの養育を持ち掛けた。順子ちゃんが夫婦と面会したり、自宅に短期宿泊したりして養育が可能か調査。7月12日に養育委託した。夫婦は将来、兄妹を養子にする意向だったという。

同児童相談所の金子準二所長は「近況報告は電話が多かった。家庭訪問の回数が多ければ異変に気づけたかもしれない。里子のサポート態勢を見直したい」と話した。

2002/11/03 毎日新聞ニュース速報

<女児虐待> 3歳里子を殴り死亡させる 43歳女逮捕 宇都宮

里子として引き取った女児(3)を殴り死亡させたとして、栃木県警宇都宮中央署は三日、韓国籍の宇都宮市日の出2、無職、李永心(りえいしん)容疑者(43)を傷害致死の容疑で緊急逮捕した。容疑を認めている。女児の体には多数のあざがあったことから、虐待の可能性もあるとして、李容疑者に事情を聴いている。

同署の調べでは、李容疑者は同日午前1時ごろ、里子の沼順子ちゃんの顔などを手で数回殴って死亡させた疑い。順子ちゃんがぐったりとして動かなくなったため、李容疑者の夫(43)が救急車を呼び、同市内の病院へ連れて行ったが、約1時間後の同午前2時ごろ死亡した。

調べに対し、同容疑者は「泣きやまないの腹が立って殴った」などと供述しているという。

順子ちゃんは今年7月、李容疑者の里子として市内の

乳児院から引き取られていた。同容疑者は、日本人の夫と、同様に里子として引き取った男児(4) 順子ちゃんの4人家族。

県中央児童相談所は男児についても「とりあえず、一時こちらで保護することを検討している」と話している。

2002/11/03 共同通信ニュース速報 3歳女児殴り死なせる 里親の女を逮捕

宇都宮中央署は三日、里親になり育てていた女児を殴り死なせたとして傷害致死の疑いで宇都宮市日の出二ノ四ノ一、韓国籍の無職女性・李永心容疑者(43)を逮捕した。

調べによると、李容疑者は三日午前一時ごろ、宇都宮市の民間乳児院から引き取った大沼順子ちゃん(3つ)が泣きやまないことに腹を立て、自宅で顔などを手で数回殴り死なせた疑い。

順子ちゃんがぐったりしたことから、日本人の夫(43)が救急車を呼び病院に運んだが、間もなく死亡した。順子ちゃんの全身にあざがあったことから、同署は、李容疑者が以前から虐待を繰り返していたとみている。

李容疑者は、夫と順子ちゃん、順子ちゃんより先に里子として引き取った男児(4つ)の四人暮らし。

栃木県中央児童相談所は、男児を一時的に保護する方針を決めるとともに、順子ちゃんが七月に引き取られた経緯などを調べている。(了)

2002/11/03 毎日新聞ニュース速報 <女児虐待> 3歳里子を殴り死亡させた韓国籍の女逮捕 栃木

栃木県警宇都宮中央署は3日、里子として預かっていた3歳女児を殴って死亡させた傷害致死容疑で、韓国籍の宇都宮市日の出2、無職、李永心容疑者(43)を緊急逮捕した。県によると、李容疑者は国の里親制度に基づく「養育里親」として乳児院から女児を引き取っていた。女児の体に多数のあざがあり、同署は李容疑者が以前から虐待していた疑いもあるとみている。厚生労働省は「預かった子供を里親が虐待死させたことなど聞いたことがない」と話している。

調べでは、李容疑者は3日午前1時ごろ、自宅居間で、里子の大沼順子ちゃんの顔などを手で数回殴り、死亡させた疑い。別室にいた李容疑者の夫(43)が子供の泣き声や物音で駆け付けると、順子ちゃんがぐったりしていた。夫の119番で病院へ運ばれたが、同午前2時ごろ、死亡が確認された。死因は脳内出血。

調べに対し、李容疑者は「泣きやまないの腹が立って殴った」などと供述しているという。

李容疑者は99年9月、県に里親申請し、00年2月に登録された。宇都宮市内の乳児院から里子として昨年12月に男児(4)を、今年7月に順子ちゃんを引き取

っており、この2人と日本人の夫の4人暮らし。男児には虐待の跡は見つかっていないが、県中央児童相談所は一時保護を検討している。【川端智子、関東晋慈】

里親制度普及を目指す検討会設置の矢先に.....

養育里親制度は、死別や経済的理由などで家庭環境を奪われた子供を一般家庭で保護、援助するため、児童福祉法に基づき1948年の厚生省(当時)通達でできた。国は今年度、虐待で傷ついた子供を専門家が引き受ける「専門里親」制度も新設。里親制度普及を目指す検討会を今月中に作るようしていた矢先だった。

栃木県中央児童相談所によると、都道府県の福祉事務所や児童相談所は里親希望者から申請があると、家庭環境や経済状況を聞き取り、問題がなければ児童福祉審議会を経て知事が登録する。李容疑者について県中央児童相談所は「調査で問題はなかった。韓国で保母など教育関係の仕事をしていたと聞き、安心して預けていた」と話す。

厚生省の唐沢剛家庭福祉課長は「非常に残念で戸惑っている。栃木県を通じて詳細に調査し、二度とこのようなことが起きないように方策を考えたい」と話す。全国では7403人が里親に登録され、うち1699人の元に2157人の子供が預けられている(00年現在)。里親には国から月2万9000円が支給される。

石川守・東京都児童相談センター養育家庭支援担当課長の話 生活を始めてみて、予想もしていなかったストレスを里親も子も感じることはある。そのため、児童相談所は里親に委託後も児童福祉士が家庭訪問したり、電話するなどフォローアップするのが普通だ。担当者がどう対応していたのか。国も積極的に里親制度を活用していこうとしている時期だけに残念で悲しい事件だ。

2002/11/03 読売新聞ニュース速報 3歳の女児殴り死なす、里親の母を逮捕...宇都宮

栃木県警宇都宮中央署は3日、乳児院から里子に引き取った3歳の女児を殴って死なせたとして、韓国籍の宇都宮市日の出2、無職李永心容疑者(43)を傷害致死の疑いで緊急逮捕した。女児は全身に多数のアザがあり、同署は、李容疑者が日ごろから虐待を繰り返していたとみて事情を聞いている。

調べによると、李容疑者は3日午前1時ごろ、大沼順子ちゃん(3)の顔などを素手で数回殴り、死亡させた疑い。李容疑者の夫(43)が救急車を呼び、順子ちゃんは病院に運ばれたが、約1時間後に脳内出血で死亡した。李容疑者は「泣きやまなかったの腹が立って殴った」と供述しているという。

栃木県中央児童相談所などによると、李容疑者は、「子どもに恵まれなかった。幼児教育の経験があり、社会に貢献したい」と里親に登録。昨年12月、順子ちゃんの兄(4)を引き取り、さらに今年7月、「兄妹は一緒の家

庭で育てたほうがいい」と順子ちゃんを里子にした。

同相談所の所員が今月1日、李容疑者宅を訪れた際に異状はなく、順子ちゃんが虐待されていることに気がなかったという。

2002/11/04 東京新聞 栃木版
里親の児童虐待死事件 相談所関係者に衝撃
2日前訪問、悲劇見抜けず

里親が里子に暴行し、死なせてしまった異例の児童虐待事件。県中央児童相談所は事件が起きる二日前の一日、月に一度の定期家庭訪問で中川美行さん(43) = 宇都宮市日の出二 = 方を訪れ、李永心容疑者(43)、大沼順子ちゃん(3つ)、順子ちゃんの兄(4つ)と面談したばかりだった。「『円満にしている』との報告だったが...』以前から虐待を受けたとみられる順子ちゃんの悲劇を見抜けなかったことに、関係者は衝撃を受けている。

県中央児童相談所によると、一九九八年十月末のまとめで、県内の里親登録数は二百二十世帯。このうち里子を受け入れているのが六十世帯で、里子は計六十八人。

里親登録の申請があった場合、児童相談所の職員が家庭に出向いて両親と面談して養育方針などを聞き、問題がなければ県の児童福祉審議会に諮られ登録が決まる。両親に高齢や病気などの欠格理由がない限り、申請はほぼ通る。登録後は、両親の要望を基に児童相談所が里子を紹介し、相性を見極めたくえ委託、月に一度の家庭訪問や電話などで近況を調べる。

中川さん夫妻の場合、まず、宇都宮市内の民間乳児院で順子ちゃんの兄と一緒に遊んだり、中川さん宅にホームステイさせた結果、「相性がいい」と判断し、兄は同年十二月に里子になった。

同相談所は当初から「できれば、兄と妹を二人とも引き受けてほしい」と要望し、中川さんも受け入れる意思を示していたといい、中川さん夫妻の負担を軽くするため、順子ちゃんは兄に七カ月遅れて里子に出された。

同相談所は「順子ちゃんについても、基本的に手続きは同じで、中川さんとの相性は良かった」と説明するが、李容疑者による虐待は、後から里子になった順子ちゃんだけに向けられていた。

宇都宮中央署の調べでは、兄に虐待の傷あとがない一方、順子ちゃんの遺体には、全身にわたって、古いものも含めて十カ所以上のあざが確認された。

2002/11/04 朝日新聞 栃木版
児童相談所、訪問気づかず 里子虐待死

宇都宮市で3日、3歳の女の子が里親の女に頭を殴られて死亡した。県警によると、遺体には以前からのものとみられる多数のアザがあり、継続的に虐待が加えられていた疑いが強いという。里親の窓口になった県中央児童相談所は死亡の2日前に家庭訪問をしたが、異変には気づけなかったという。

死亡したのは大沼順子ちゃん(3)。傷害致死の疑いで宇都宮中央署が緊急逮捕したのは里親の主婦、李永心容

疑者(43)。

順子ちゃんが里子として迎えられたのは今年7月。その後の養育状況は県中央児童相談所が把握することになっていたが、直接家庭訪問をしたのは2回だけで、それ以外は電話で近況を聞くのが主だったという。

同相談所によると、2回目に家庭訪問をしたのは順子ちゃんが死亡する2日前の1日。担当職員が午後8時から約1時間、容疑者宅を訪ねた。順子ちゃんは容疑者のひざに乗るなど養母になじんでいる様子で、外に見える部分ではアザも見あたらず、異変はうかがえなかったという。

同相談所によると、容疑者と夫の間には子どもがいなかった。容疑者らはまず昨年末に順子ちゃんの兄(4)を里子として受け入れ、さらに同相談所の勧めで順子ちゃんも迎えたという。

容疑者に里親の適性があったかどうかについて、金子準二所長は「きちんと事前審査をしており、問題はなかったと思う」とした。しかし、一方で「ほかの児童虐待の対応などで里子のサポートが十分でなかった」とも話し、不備を認めた。

李容疑者の夫の父によると、容疑者と夫は韓国で7～8年前に結婚し、5年ほど前から夫の実家がある宇都宮に住むようになった。義父は「(容疑者は)しつけに厳しかったが、手を出すことはなかったと思う」と話す。容疑者は順子ちゃんを可愛がっている様子で、育児の悩みを訴えることもなかったという。

里親制度は施設に預けられている子どもを希望者が一定期間引き取って育てるもので、里親の希望者は事前に登録をしておかねばならない。熱意や経済状況、家庭環境、性格などの観点で市町村の福祉事務所と県児童相談所が審査し、さらに県児童福祉審議会が承認を与える。李容疑者も同じ手続きを受けたという。

2002/11/04 毎日新聞 東京朝刊
里子の女児、殴り死なす 容疑の女逮捕、国の制度で引き取り - - 宇都宮

栃木県警宇都宮中央署は3日、里子として預かっていた3歳女児を殴って死亡させた傷害致死容疑で、韓国籍の宇都宮市日の出2、無職、李永心容疑者(43)を緊急逮捕した。県によると、李容疑者は国の里親制度に基づく「養育里親」として乳児院から女児を引き取っていた。女児の体に多数のあざがあり、同署は李容疑者が以前から虐待していた疑いもあるとみている。

調べでは、李容疑者は3日午前1時ごろ、自宅居間で、里子の大沼順子ちゃんの顔などを手で数回殴り、死亡させた疑い。別室にいた李容疑者の夫(43)が泣き声や物音で駆け付けると、順子ちゃんがぐったりしていた。病院へ運ばれたが、同午前2時ごろ、死亡が確認された。死因は脳内出血。

調べに対し、李容疑者は「泣きやまないの腹が立っ

て殴った」などと供述しているという。

李容疑者は99年9月、県に里親申請し、00年2月に登録された。乳児院から昨年12月に男児(4)を、今年7月に妹の順子ちゃんを引き取り、この2人と日本人の夫の4人暮らし。兄のほうに虐待の跡は見られないが、県中央児童相談所は一時保護した。同相談所によると、李容疑者は里親申請の際、ゆくゆくは養子縁組したいとの希望を伝えていた。

埼玉県内でも94年、里親が同様の容疑で逮捕された。
【川端智子、関東晋慈】

「虐待専門」新設の矢先

国は今年度、虐待で傷ついた子供を専門家が引き受ける「専門里親」を新設、制度普及を目指す検討会も今月中につくろうとしていた矢先だけに「非常に残念で、戸惑っている」(厚労省の唐沢剛家庭福祉課長)と事件にショックを受けている。

里親制度は児童福祉法に基づき1948年にできた。全国では7403人が里親に登録され、うち1699人の元に2157人の子供が預けられている(00年現在)。里親には国から月2万9000円が支給される。

都道府県の福祉事務所や児童相談所は里親希望者から申請があると、家庭環境や経済状況を聞き取り、問題がなければ知事が登録する。栃木県中央児童相談所は「(李容疑者は)韓国で保母など教育関係の仕事をしていたと聞き、安心して預けていた」と話す。

2002/11/04 毎日新聞 地方版/栃木 里子傷害致死 また幼い命が... 「泣きやまないで腹立った」 / 栃木

また幼い命が奪われた。3日、宇都宮市日の出2の自宅で、里親の無職、李永心容疑者(43)が里子の大沼順子ちゃん(3)を殴って死亡させた傷害致死容疑で逮捕された。順子ちゃんは、7月に引き取られたばかり。順子ちゃんをはぐくむはずだった「家庭」で一体何が起きたのか。李容疑者は「泣きやまないで腹が立って殴った」と供述。順子ちゃんの体には多数のあざも見つかかり、宇都宮中央署は虐待された疑いもあるとみている。

李容疑者の家族の知人によると、李容疑者は10年以上前、仕事の関係で渡韓していた夫と知り合って結婚。当初は夫婦で韓国に住んでいたが、8年ほど前に夫の実家に近い、現在の自宅に引っ越してきた。日本語があまり上手でなかったせいも、近所付き合いはほとんどなかったという。

里親登録の際、李容疑者から聞き取り調査を行った県中央児童相談所は「調査した職員の話では、(李容疑者

は)教育熱心で里親制度にも理解を示していたと聞いている。安心して預けられる里親だったと思っていた」と驚いた様子で話した。

近所の女性(25)は「男の子とお父さんが一緒に出かける姿をよく見かけた。身近なところで、こんなむごい事件が起きるなんて...」とくちびるを震わせていた。
【川端智子、関東晋慈】

2002/11/04 朝日新聞 東京朝刊 3歳殴り死なせた疑い 宇都宮、里親の主婦を逮捕

乳児院から里子として引き取った女の子(3)を殴り死なせたとして、栃木県警宇都宮中央署は3日、宇都宮市日の出2丁目、韓国籍の主婦李永心(リエイシン)容疑者(43)を傷害致死の疑いで緊急逮捕した。李容疑者は「泣きやまないで腹が立った」と供述しているという。県警では、女の子の全身にアザがあることから、以前から虐待があった可能性があるともみて調べている。

調べでは、李容疑者は3日午前1時ごろ、自宅のアパートで、7月に宇都宮市内の乳児院から引き取った大沼順子ちゃんの頭を素手で数回殴り、約1時間後に死亡させた疑い。夫が119番し、順子ちゃんを病院に運んだ。不審に思った病院から県警に通報があった。

死因は外傷性の急性硬膜下血腫。暴行によるものとみられ、遺体の腕や脚などには多数の古いアザがあった。県警は、李容疑者が虐待を繰り返していたともみて調べている。

順子ちゃんを李容疑者に養育委託した県中央児童相談所によると、委託した7月以来の家庭訪問を1日にしたときは円満そうだったという。李容疑者は日本人の夫(43)と01年9月、「子どもが出来なかったから」と里親になることを県に申請。同年12月に順子ちゃんの兄(4)を引き取った。

同相談所は今年3月、「兄と妹そろって生活した方がよい」と考え、李容疑者夫婦に順子ちゃんの養育を持ち掛けた。夫婦は将来、兄妹を養子にする意向だったという。

同児童相談所の金子準二所長は「近況報告は電話が多かった。家庭訪問の回数が多ければ異変に気づけたかもしれない。里子のサポート態勢を見直したい」と話した。

2002/11/05 北海道新聞 朝刊全道 3歳女兒が殴られ死亡*里親の女逮捕*宇都宮

宇都宮中央署は三日、里子として育てていた女兒を虐待し死亡させたとして、傷害致死の疑いで韓国籍の無職李永心容疑者(43)=宇都宮市日の出二ノ四=を逮捕した。

調べでは、李容疑者は、宇都宮市の民間乳児院から引き取った大沼順子ちゃん(3つ)が泣きやまないことに腹を立て、三日午前一時ごろ、自宅で顔などを手で数回殴り死亡させた疑い。順子ちゃんがぐったりしたため、夫(43)が救急車を呼び病院に運んだが、間もなく死亡した。順子ちゃんは全身にあざがあり、同署は李容疑者が以前から虐待を繰り返していたとみている。

李容疑者は、夫と順子ちゃん、順子ちゃんの兄(4つ)の四人暮らし。

2002/11/06 下野新聞 朝刊
里親養育、実態調査へ - 宇都宮の里子傷害致死
県、支援体制見直し

宇都宮市の大沼順子ちゃん(三つ)が里親(四十三)に殴られ、死亡した事件を受けて、県は五日、県内の里親の養育状況を把握するため、里子を引き取っている里親全員を対象に実態調査に乗り出す方針を固めた。里親との連絡など支援体制の見直しにつなげる考えだ。

県によると十月現在、県内には二百二十人が里親登録しており、うち、六十人が里子を受け入れている。調査対象とする里親は、里子を受け入れている六十人全員。調査は六日から開始、県児童相談所職員などが直接、里親宅を訪問し、聞き取り調査する。

里子がどういう環境で育てられているか、里親の子育て上の悩みなどを把握する。今月中の調査完了を目指す。

この事件をめぐるのは、亡くなった大沼順子ちゃん(三つ)が里子になってから、県中央児童相談所職員が家庭訪問したのは委託日の七月十二日と事件二日前の二度だけだったことが判明、同相談所は「(容疑者になった)里親へのサポートが足らなかった」と支援体制の不備を認めている。

県内の里親からは支援不足訴える声

宇都宮市の大沼順子ちゃん(三つ)が里親(四十三)に殴られ死亡した事件で、県内の里親たちは事件を非難する一方、「心の傷を負った子どもへの対応を学ぶ機会が無い」と児童相談所などによる支援体制の不備を指摘する声を上げている。順子ちゃんも家庭経験がまったくない子だった。事件は心の傷を抱えた子に対応しきれない里親制度の未熟さを浮き彫りにした。

「自分への注目を求めるのか、こちらの言うことの逆手に出た。乳児院で育った男児(三つ)を養育する西那須野町の里親鷹栖律子さん(六十一)も当初、愛着障害を感じたという。引き取って約一年後、ようやく「抱っこして」と素直に甘えるようになった。

「泣き出したいこともあった」鷹栖さん。児童相談所の職員に「虐待するかも知れないよ」ともらしても「あり得ませんよ」ととり合ってくれない。

「相談所はこちらが求めなければ訪問してくれない。孤立しがちな里親にとって事件は誰にでも起こり得る。

周囲のサポートが必要」と訴える。

子どもたちの心の傷をいやす里親制度への取り組みは近年、始まったばかり。厚生労働省は先月、研修を受けた里親が被虐待児を受け入れる専門里親制度をスタートさせたが、里親への研修制度は依然として不十分だ。

県南の四十代の女性の里親は現在、専門里親の研修中。「里親は『愛情を持って育てれば何とかなる』という甘いものではない。この女性は一九九五年に里親登録したが、公的な研修は年一回、講演会がある程度だ。

「乳児院などにいる子は愛着障害や心的外傷後ストレス障害(PTSD)になっていることが多く、そういう子への対応を学ぶ必要がある。十分な訓練や支援があれば事件は防げた」と訴える。

2002/11/05 毎日新聞 地方版 / 栃木
里子傷害致死 児童福祉司の家庭訪問、回数増やす方針
/ 栃木

里子として預かっていた大沼順子ちゃん(3)を殴って死亡させた傷害致死容疑で、里親の宇都宮市日の出2、無職、李永心容疑者(43)が逮捕された事件で、県中央児童相談所の金子準二所長は4日、事件の再発防止のため、今後、早急に児童福祉司による里親家庭の訪問回数を増やす方針を明らかにした。委託直後の家庭を重点的に、訪問回数を1カ月に1回程度に増やし、電話連絡をまめに取るよう指導する。【川端智子】

中央児童相談所、委託直後重点に

同相談所には9人の児童福祉司がおり、宇都宮市を中心に5市18町、19家庭の里親を担当している。里親家庭への訪問は2~3カ月に1回程度で、それ以外は電話でのやりとりが主だという。

今回の事件前、児童福祉司が李容疑者の自宅を訪問したのは、順子ちゃんが預けられた7月12日と、事件直前の今月1日の計2回。児童福祉司はこの間、月に1、2回程度、電話で連絡を取った。順子ちゃんの住民票や行政への書類の提出を求めたほか、家庭での様子を簡単に尋ねただけだった。一方、李容疑者からの電話も書類の記入方法に関する質問程度だったという。

厚生労働省は児童福祉司による里親家庭の訪問について、随時行うよう指導しているが、回数や頻度などは規定していない。金子所長は「里親と頻りに接触することで、相談所との距離を近くすることが必要だ。環境に慣れるまでの段階が一番トラブルが起きやすい。相談をしてこない家庭にも連絡をまめに取れば、トラブルの兆候なども事前に察知でき、問題が顕在化するのではないかと話している。

県内では10月現在、220家庭が里親として登録され、うち60家庭で68人の里子が養育されている。

李容疑者を送検

宇都宮中央署は4日、傷害致死の疑いで李容疑者の身柄を宇都宮地検に送検した。

より手厚い支援必要 - 金子所長に聞く

金子準二・県中央児童相談所長に、事件前の李容疑者の家庭内の様子や行政の課題を聞いた。

事件2日前の訪問では、どんな様子だったのか

1日の午後8時から、1時間程度行われた。担当者によると、(李容疑者、43歳の夫、順子ちゃん、4歳の兄)4人の一家団らんという感じだった。仲良くパズルをしたり、歌も歌うなど和やかな雰囲気だった。(李容疑者は担当者に対し)「3カ月たって、甘えるようになってきた」と報告していた。「最終的には2人と養子縁組をしたい」とも言っていた。

順子ちゃんの体には多数のあざがあったという。体のチェックはしなかったのか

里親制度は行政と里親の信頼関係が大事。第三者から児童相談所に「児童虐待の可能性がある」といった通告がなければ、子供に服を脱がせ、調べることはできない。担当者は順子ちゃんの顔や手足など、見えるところにあざなどはなかったと話している。

相談などはなかったのか

相談所や児童福祉司にはなかった。事件発生後、家族に事情を聴いたら、夫には「よく泣く」「言うことを聞かない」「他の3歳児に比べて言葉(の発達)が遅い」などと相談していたほか、(順子ちゃんを)「たたいてしまった」と話していたという。夫は軽くやったと思い、「気長にやろう」とアドバイスしていたと話していた。

里親選びに問題はなかったのか

なかったと思っている。韓国で9年間、保母として経験があり、里親制度にも理解を示していた。安心できる里親の1人だった。「なぜ、こんなことになってしまったのか」と今でもショックだ。ただ「(李容疑者から)援助を求められなかったから、行政は何も出来なかった」で済まされる問題ではない。今後は児童福祉司の増員も含め、里親へのより手厚い支援が必要だと思っている。

2002/11/06 下野新聞

論説 宇都宮市の里子傷害致死 里親支援の態勢見直しを

乳児院から七月に里子として引き取った三歳女児を殴って死亡させたとして、宇都宮市の韓国籍の主婦が傷害致死の疑いで逮捕された。女児の全身には殴るなどしてできたと思われるあざが十ヶ所以上あるため、以前から虐待があった疑いが強まっている。

この女性は、子どもができなかったため、日本人の夫と里親になることを二〇〇一年九月、県に申請。同年十二月に女児の兄(四つ)を引き取った。女児は県中央児童相談所が「兄妹そろって生活した方が良い」として養育を持ち掛けた。

女性は韓国で九年間、幼稚園教諭として子育ての実務経験があり、安心して子どもを委託できる里親の一人だったという。兄弟そろって家庭的な養育環境の下にという配慮が生かされなかったのは、残念なことだ。

なぜ、こうした事態に至ったのか、県は原因を究明し、虐待防止に向け、里親への支援態勢児童相談所の体制の充実に力を入れてもらいたい。

乳児院に預けられた子どもは、二歳までしか養育してもらえない。その後は養護施設や里親に委ねられる。しかし、養護施設は十八歳まで預かれることや児童虐待の増加等で入所児が多く県内九ヶ所の施設はほぼ満員だ。

里親に委託する際は、父母の状況や子どもの発達状況などを考慮し、最も適合する里親が選ばれる。里親と対象児童は外泊などの試験養育期間を経て、うまく親子関係が築けるか、などを見極めた上で委託される。

今回の女児のケースで県は「里親選びに問題はなかった。」と強調している。しかし、里親との関係を見極める際、親子関係がうまく築けるかという縦の関係を重視する余り、周囲など横との関係を見るのが手薄になった面はなかったろうか。横の関係は子育てを支援するセーフティ・ネット(安全網)にも発展してゆく可能性がある。

この女性は児童相談所や児童福祉司には相談しなかったが、子どもがよく泣くことやいうことを聞かないことなどに悩み、殴ってしまったという。子育てのストレスが自分を追いつめ、子どもに向かってしまったようだ。

しかし、子どもは安心できる場に行くと里親の愛情を試す独特の問題行動を起こす。里親自身にも家族にも相当の負担がかかり、里親をやめてしまう人もいる。

核家族化が進み、地域社会との関係も希薄になっている。カウンセリングの充実など、里親に対する支援やトレーニング体制を充実させる必要がある。

県中央児童相談所には九人の児童福祉司がいる。宇都宮市を中心に五市十八町、十九家庭の里親を担当している。県内全体の里親家庭は六十ある。里親家庭への訪問は二、三ヶ月に一回程度でそれ以外は電話でのやりとりが主になるという。

今回のケースで児童福祉司がこの女性宅を訪問したのは、女児が預けられた七月中旬と事件直前の計二回だった。

専門家による支援態勢が手薄な背景には、専門職が少なく、児童虐待や非行などの増加に対応しきれないことや、里親は養育よりも養子縁組を希望するケースが多く、養子縁組が成立した後まで公的機関の支援を好まない傾向などがあるからだ。

児童福祉の専門家は県全体で児童福祉司がわずか二十人。心理判定員は十人だ。専門職が容易に増えないのは欠員補充という原則があるためだ。しかし、県は少子化時代を迎え、子育てに力を入れると標ぼうしている。専門家の確保にも、もっと柔軟に対応してもらいたい。

2002/11/06 共同通信ニュース速報 里親制度の拡充を検討 衆院委で厚労相答弁

坂口力厚生労働相は六日の衆院厚生労働委員会で、親元で暮らせない児童を預かる里親制度について「日本は里親が少ない。質、量ともに前進させる必要がある」と、同制度の拡充策を検討する考えを示した。

宇都宮市で三日起きた里親による傷害致死容疑事件に関連し、「最近の里親に預けられる子どもは(実の親による)虐待など、質的に今までと違ってきている面がある。里親の能力や中身が問われており、十分に配慮しながらやっていきたい」と述べた。

厚労省によると二一年三月現在、千六百九十九人の里親が二千百五十七人の児童を養育しているが、欧米に比べて施設に入所する割合が高い。

水島広子氏(民主)の質問に答えた。(了)

2002/11/07 下野新聞 朝刊 里親の支援体制充実へ 坂口厚労相が考え示す 宇都宮の里子傷害致死

宇都宮市で三歳の女兒が里親(四三)に殴られ死亡した事件で、坂口厚生労働相は六日の衆院厚労委員会で「このような事件を防ぐのは、養育を里親だけに任せておいては難しい。児童相談所と児童施設と連携プレーをとっていかないといけない」と述べ、里親支援体制の充実を図る考えを示した。

民主党の水島広子衆院議員の質問に答えた。水島氏が「里親が専門知識を持つのは必要だが、知識があれば一人でやっていけるというものではない。常にサポートを受けられる体制が必要だ」とただしたのに対し、坂口厚労相は「事件を聞き心痛む思いがした。」と発言。「虐待を受けた子の場合、ただ預かれればいいと思っていると問題が生じる。里親制度の中身や能力が問われる時代になった」と制度の見直しを示唆した。

厚労省の岩田喜美枝雇用均等・児童家庭局長も「里親のサポート体制は充分ではなかった」と不備を認め、児童相談所などが十分に相談に応じる体制をつくることを今後の課題に挙げた。

2002/11/12 NHKニュース速報 女兒虐待死 逮捕の里親の女 しつけで以前からたたいていた

今日三日、宇都宮市で児童福祉施設から引き取って育てていた三歳の女の子を殴って死亡させたとして、傷害致死の疑いで逮捕された里親の女は「以前からしつけのつもりでたたいていた」と供述し、警察では女の子への暴力が繰り返されていたものと見て調べています。

この事件は今日三日、宇都宮市日の出(ヒノデ)の李永心(リエイシン)容疑者(四十三)が、里子として育てていた大沼順子(オオヌマジユンコ)ちゃん(三)を殴って死亡させたとして、傷害致死の疑いで警察に逮捕されたものです。

警察では、順子ちゃんの全身にあざがあったことから調べたところ、李容疑者は「順子ちゃんが言うことを聞かない時には以前からしつけのつもりで手でたたいたりしていた」と供述したということです。

李容疑者は四年前に韓国から日本に来ましたが、警察の調べに「環境の違いに悩んでいた」とも供述しているということです。

警察では、李容疑者が子育てなどに悩んで順子ちゃんに繰り返し暴力を振るっていたものとみて、家庭と連絡をとっていた児童相談所の担当者などからも事情を聞いて詳しく調べることにしています。

2002/11/13 毎日新聞ニュース速報 <里親事件> 孤立深め虐待 家庭訪問の職員見逃す 宇都宮

里子の女兒を殴って死なせた傷害致死容疑で逮捕された宇都宮市日の出の主婦、李永心容疑者(43)は宇都宮中央署の調べに「以前からたたいていた」と供述し、事件前、子育ての悩みを周囲に漏らしていた。だが事件2日前、県の担当職員が家庭訪問した際も事件の兆しは見逃されていた。行政の十分な支援を受けられず、孤立を深めた里親の姿が浮き彫りになってきた。

李容疑者は自宅アパートで3日午前1時ごろ、大沼順子ちゃん(3)の顔を数回殴り、脳内出血で死なせた疑いで逮捕された。署の調べに「泣きやまないのでカッとなって殴った」と供述している。順子ちゃんの顔全体や手足には多数のあざが残っていた。韓国人の李容疑者は日本語が得意でなく、順子ちゃんに言葉が通じないいら立ちもあったとみられる。

栃木県中央児童相談所によると、幼稚園教諭を9年間務めた李容疑者は夫と5年ほど前、韓国から引っ越してきた。子供に恵まれず、教職の経験もあることから、00年2月に里親登録され、昨年12月に男児(4)を、今年7月に妹の順子ちゃんを引き取った。

事件後、相談所が夫に事情を聴くと、李容疑者は夫に「(順子ちゃんが)言うことを聞かない」「言葉(の発達)が遅い」と相談し、「たたいてしまった」とも話していたことが分かった。

夫は「気長にやろう」とアドバイスしていたが、コンピューター関係の仕事で帰宅は毎晩遅かった。「(李容疑者は)家に閉じこもりがちだった」と夫の父親(71)は言う。

厚生労働省は児童福祉司が里親家庭を随時訪問するよう指導している。だが李容疑者宅への訪問は順子ちゃん

を預けた7月12日と、事件2日前の11月1日の2回だけ。1日は約1時間、里子の近況などを聴いたが、異状は見つけれなかった。相談所は「第三者の通報がない限り（虐待の跡がないか）子供の服を脱がせて調べることもできない」と説明する。

4人の里子を育てた県内の40代の女性は当初、里子との衝突が絶えず、児童心理士などで独学して初めて原因を理解できたという。この経験から「行政は里親が学ぶ場や相談窓口を作ってフォローすべきなのに、預けっぱなしだ」と批判する。

県は2～3カ月に1回だった家庭訪問を月1回程度に増やす方針を決め、訪問時のガイドライン作りも検討している。【川端智子、関東晋慈】

**2002/11/15 毎日新聞 地方版 / 栃木
里子傷害致死事件受け、県が呼び掛け -
- 藤原で定例里親大会 / 栃木**

「悩み相談して」

県里親連合会は14日、藤原町で年1回定例で行われる里親大会を開き、県内の里親や行政の福祉関係者約100人が出席した。冒頭で、11月3日に里親に殴られて亡くなった大沼順子ちゃん(3)への黙とうが行われた。麻生利正・県保健福祉部長は、傷害致死容疑で逮捕された里親の宇都宮市日の出2、主婦、李永心容疑者(43)について「不安やストレスが要因の一つだったようだ。養育する中で、悩みを一人のものにしないよう、児童相談所などに相談してほしい」と呼びかけた。

席上、麻生部長は、「児童虐待の増加に伴い、(虐待を受けた子供のケアを行う)専門里親が始まったばかり。社会で里親への期待が高まっている中での事件で、非常に残念」とあいさつした。

また、県児童家庭課は10月から里親を、(1)従来の「養育里親」(2)三親等以内の児童を養育する「親族里親」(3)1年以内の短期間預かる「短期里親」(4)専門的な研修を受け、児童虐待などで心身に影響を受けた子供を預かる「専門里親」の四つに分類することを報告した。里親が年7日間まで、里子を児童養護施設などに預け、一時的に休息が出来る「レスパイト・ケア」制度が導入されたことも紹介された。

出席した50代の女性は「今回の事件は里親ということばかり話題になっているが、子育てをしている親のどれもが起こす可能性のある事件。子供は親だけでなく、社会も一緒に育てているという感覚を持って、制度を充実させることが必要なのではないか」と話した。【川端智子】

**2002/11/15 読売新聞 東京朝刊
里子虐待死事件後、藤原で初の里親大会 参加者、
ショック隠せず = 栃木**

「相談所職員少ない」 里親ら問題点を指摘

宇都宮市で三歳の女兒が里親に虐待され死亡した事件の後、初めてとなる県里親大会が14日、藤原町のホテルで開かれた。参加した里親たちは事件にショックを隠せず、「児童相談所の職員が少ない」「職員の訪問でも家庭の本当の姿は見えない」といった問題点を指摘した。県は、傷害致死容疑で逮捕された主婦が悩みを相談できずに事件を引き起こしたとして、「気軽に相談してほしい」と呼び掛けた。

大会は年一回開催され、今回は、里親約百三十人と県関係者らが出席。冒頭、参加者全員で亡くなった女兒のために一分間の黙とうを行った。

あいさつした麻生利正県保健福祉部長は、事件について触れ、「(逮捕された主婦は)不安やストレスを相談できず、自分で思い詰めたことが要因の一つと聞いている。悩みを一人のものとしなくて気軽に相談してほしい」と話した。

会場で声を聞くと、里親たちは、口々に事件の衝撃を語り、児童相談所などへの要望を訴えた。

小学生の男の子二人を育てる五十歳の女性は「児童相談所とのつながりは生命線。つながりが少しでも離れると非常に不安になる」と児童相談所の役割の大きさを訴えた。

二歳の女の子を育てている四十九歳の女性は「身近な問題なので衝撃を受けた。児童相談所は人数も少なく、現在の訪問では里親家庭の詳しいことを把握するのは難しいと思う。訪問に来て“お客さん”程度の付き合いになっている」と指摘する。

三人の里子を育てた四十二歳の女性も「逮捕された主婦は、幼稚園の職員の経験もあったのでショックを受けた。児童相談所の職員は少なく、二、三年で担当が変わり、長期的な視野に立って、相談できる人がいない」と訴えた。

「孤立した里親」対策が課題

里親制度は、親がいなかったり、育児を放棄してしまったりした時に、都道府県が子どもの養育を希望者に委託する。

里親は、児童相談所から健康や経済状態、家庭環境などについて面接調査を受け、登録されるが、県里親連合会の森富男副会長(67)は「社会の偏見などもあり、実子を育てる以上にストレスがたまる」と話す。

悩みを抱える里親のために同会は、交流会などを開いている。里親同士が情報を交換し、話し合うことで悩みの多くが解決されている。

ただ、里親であることを周囲に知られることを嫌い、交流を避ける人もいる。逮捕された主婦も、交流会や地域の研修会に全く参加していなかった。

こうした「孤立した里親」への心のケアはこれまでも課題となっていて、国は今年十月から新たな制度を導入した。

育てるのに疲れた場合、一時的に施設や別の里親に預けられるようになり、児童相談所に里親を専門にアドバイスする職員を設けることになった。ただ、県では予算の関係などからまだ動き出しておらず、早期の実施を目指している。

写真 = 黙とうをささげる参加者たち

2002/11/15 朝日新聞 東京地方版 / 栃木 行政の里親支援体制強化、望む声 県、藤原町で大会 / 栃木

県里親大会（県里親連合会主催）が14日、藤原町内で開かれ、県内の里親や県職員ら約110人が参加した。宇都宮市の里子致死事件を受け、行政の里親支援の見直しや、里親同士の連携強化が話し合われた。

参加者らは、死亡した大沼順子ちゃん（当時3）の冥福を祈り黙祷（もくとう）。分科会では里親らから、児童相談所への専門相談窓口の設置など、行政の里親支援について体制強化を望む声があがった。

2002/11/20 中日新聞 夕刊 前線日記 宇都宮・里子虐待死事件 「子どもへの愛情深いはず」...が裏目 周囲思い込み、支援体制も整わず

「子どもが欲しくて引き取ったはずの里親が虐待なんでするはずがない...」。宇都宮市のアパートで三日、大沼順子ちゃん（3つ）が里親の李永心容疑者（43）に頭を殴られ、死亡した幼児虐待事件は、そんな先入観を覆す出来事だった。極めてまれなケースとはいえ、そこには里親制度の“死角”も垣間見える。（宇都宮支局・吉田通夫）

傷害致死容疑で逮捕された李容疑者は、韓国で幼稚園の先生だった。仕事で訪韓していた日本人の夫（43）と知り合い、十四年前に結婚したが、子どもに恵まれず、夫妻は一昨年二月に栃木県に里親登録。昨年十二月、順子ちゃんの兄（4つ）を引き取り、今年七月に順子ちゃんを迎えた。

今月一日、児童相談所の児童福祉司は、養育が順調かどうかを確かめるため家庭訪問した。李容疑者は「最近（順子ちゃんが）よく泣くので困る」と、悩みを打ち明けた。しかし、家庭の雰囲気は円満そうに見えたため、児童福祉司は「よくあることなので、気長に子育てを」とアドバイス。同容疑者は「がんばります」と答えた。事件が起きる二日前だった。

夫は仕事に忙しく帰宅が遅かった。近所に住む義父は息子夫婦の養育方針に口を挟むまいと、あえて干渉しなかった。事件後、二人はそれぞれ「なぜ防げなかったのだろう」と悔やんでいる。

李容疑者は日本語がたんのうではなかったためか、近所付き合いもあまりなかった。県警の調べに「泣きやまないのかとってなってしまう」と涙ながらに話したという。順子ちゃんの体には多数のあざが残っていたが、県警は同容疑者が孤立して育児ノイローゼに陥ったとの見方を強めており「憎くて虐待したというより、しついでたいたようだ」との同情も聞かれる。

行政もこの事件にショックを受けた。栃木県中央児童相談所の金子準二所長は「里親に虐待を疑うような調査はできなかった」と“盲点”だったことを率直に認める。

児童福祉法に基づく里親制度について国は先月、初めての大掛かりな改正を実施。子育てに疲れた里親が一時的に里子から解放される「レスパイト・ケア」という支援策も設けたが、栃木県ではまだ体制が整っておらず同ケアは今回のケースには間に合わなかった。

三人の里子を育てた経験のある同県西那須野町の女性（61）は「心身ともに疲れて暴力を振るいたくなることもある」と正直に告白する。

出産直後に乳児院に入るなど家庭経験のない里子の場合、里親の愛情を試すために泣いたり暴れたりすることがあるという。順子ちゃんも同じ境遇だった。

そんな順子ちゃんにうまく対処できず、次第に孤立感を深めていった李容疑者。「里親だから心配ない」。周囲のそんな思い込みや、プレッシャーが追い詰めたのかもしれない。

（メモ）

養育里親制度 全国の児童相談所が窓口となり、書類審査と面接で経済状況、養育計画などを調べ、各都道府県の児童福祉審議会が登録の可否を決める。登録されると、児童相談所が里子を紹介。面談や外出、外泊を繰り返し、相性が良ければ里親に委託される。厚生労働省のまとめでは、2000年度末現在、全国で登録されている里親は7403世帯。うち1699世帯が2157人の里子を預かった。里子になれる子は乳児院、児童養護施設で生活する児童の1割にも満たない。

2002/11/22 共同通信
里子虐待死の女を起訴

宇都宮市で里親が三歳の里子を殴り死なせた事件で、宇都宮地検は二十二日、傷害致死罪で宇都宮市日の出二丁目、韓国籍の主婦李永心容疑者（43）を起訴した。

起訴状などによると、李被告は今月一日から三日にかけて、宇都宮市の民間乳児院から引き取った女児を突き倒して頭を床に打ち付けさせたり、顔を手で殴ったりして三日未明、死亡させた。

李被告は調べに対し「泣きやまないの腹が立った」と供述している。

李被告は二年二月に里親登録し、昨年十二月に女児の兄を、今年七月に女児をそれぞれ引き取り育てていた。

2002/11/23 毎日新聞 地方版 / 栃木
里親特有の悩み、浮き彫りに - - 実親との関係 / 養子縁組問題 / 告知の時期 / 栃木

県児童家庭課は22日、宇都宮市の里子傷害致死事件を受け、県内の里親家庭58世帯を対象に行った聞き取り調査の結果を発表した。里子64人中、ほぼ半数の31人の里子に対し、何らかの悩みがあると回答した。「落ち着きがない」「反動的」など子育てに関する悩みのほか、実親との関係や里子への告知をめぐる悩みが目立った。今後、同課職員や児童福祉司で検討班を設置し、調査結果を詳しく分析する。【川端智子】

検討班設置へ - - 県全世帯調査

調査は今月6日から13日にかけて実施し、里親全世帯が回答した。養育上の悩みでは、「反動的」「落ち着きがない」「乱暴な言動がある」など一般的な子育てに通じる悩みがある一方、「自虐行為がある」「不登校」など深刻な声も寄せられた。また、「実親との関係」「養子縁組に関する悩み」「告知の時期」など、里親特有の悩みも寄せられた。

児童相談所に対しては、「里親という立場の特殊性を理解した相談体制の整備」などサポートの充実を求める意見が6件あったほか、「（児童福祉法で対象外となる）18歳以上の里子にもフォローが必要」という現行制度への不満も出た。

里子自身の回答は8人。「学校も家庭も楽しい」（中学生）、「希望大学に合格し、喜んでいる」（高校生）という声の一方、「学校がつまらなく、お金にも困っている」（高校生）、「今後、実母の所に行くかどうか分からない」（小学生）、「人間関係がうまくいかず、学校でも友だちができてにくい」（中学生）などの悩みもみられた。

児童家庭課は「里親の多くは一般的な子育ての悩みにプラスして、里親ならではの悩みを持っていることが改めて分かった。調査を基に、そこをフォローできるよう

な体制を作っていきたい」と話している。

2002/11/23 毎日新聞 地方版 / 栃木
里子傷害致死 李永心容疑者を起訴 - - 宇都宮地検 / 栃木

宇都宮地検は22日、里子の女児（3）を殴って死なせた傷害致死の罪で、里親の宇都宮市日の出2、主婦、李永心容疑者（43）を宇都宮地裁へ起訴した。

起訴状によると、李被告は、今月1日から3日の間、自宅で里子の大沼順子ちゃんの胸を右手で突いて転倒させ、後頭部を床にぶつけさせた。さらに顔を平手で殴り、頭を壁にぶつけさせるなどの暴行を加え、3日午前2時ごろ、宇都宮市内の病院で脳内出血で死なせた。【仙石恭】

2002/11/23 読売新聞 東京朝刊
宇都宮の里子虐待死 李容疑者を起訴 - 栃木

宇都宮市で大沼順子ちゃん（当時三歳）が、里親から虐待を受けて死亡した事件で、宇都宮地検は二十二日、宇都宮市日の出二、主婦李永心容疑者（43）を傷害致死の罪で、宇都宮地裁に起訴した。

起訴状によると、李容疑者は十一月一日から三日までの間、自宅で、里子の順子ちゃんの顔を殴り、頭を壁に打ちつけるなどした。順子ちゃんは三日午前二時ごろ、運ばれた病院で脳内出血で死亡した。

李容疑者は、順子ちゃんを預かった際、夫と「厳しくしつけていこう」と話し合ったという。調べに対し、「最初は軽くたたく程度だったが、泣きやまなかったり、わがママを言い出したりしてから、徐々に強くたたくようになった」と供述。「大変申し訳ないことをしてしまった」と、深く反省しているという。

県中央児童相談所によると、順子ちゃんが正式に里子として引き渡されたのは今年七月十二日。児童福祉司が、李容疑者宅を訪れたのは、引き渡す前の七月九日と事件二日前の十一月一日の二回だけだった。

十一月に訪問したときは、李容疑者が「最近わがママになってきた」と話していたが、順子ちゃんの表情などから虐待があったような雰囲気は感じられなかったという。

2002/11/23 読売新聞 東京朝刊
悩み多い里親浮き彫り 宇都宮の虐待死受け、県が実態調査 - 栃木

実の親との関係や子供の情緒不安定

宇都宮市で大沼順子ちゃん（当時三歳）が、里親から虐待を受けて死亡した事件を受け、県が行った里親と里

子の実態調査の結果が二十二日、まとまった。実の親でないことを伝える時期や実母との関係など、里親が様々な悩みを抱えていることが分かった。児童相談所にも積極的なかわりを期待する一方で、一部には必要以上のかかわりを求めないとの意見もあり、複雑な里親の心境と相談所の対応の難しさが浮き彫りになった。

相談所へは厳しい意見も

県内には現在、五十八世帯の里親に、六十四人の子供が委託されている。調査は、児童相談所の児童福祉司が家庭訪問し、すべての里親と子供に面談した。

里親の意見の中では、「落ち着きがない」「乱暴な言動がある」「自虐的行為があって心配」など、就学前の子供に関して、情緒の不安定さを心配する意見が目立った。「実の親ではないと伝えていない。医療機関にかかった際、本名を言われるので悩んでいる」(小四里親)、「いつ伝えるべきか悩んでいる」(小二里親)などの悩みもあった。

「実母と面会させているが、今後が心配」(三歳里親)、「実母の干渉が恐ろしい」(小二里親)など実の親との関係について心配している人もいた。

児童相談所への要望では、里親同士が情報交換できる場を求める声が上がった。「密接にかかわってほしい」「定期的に訪問してほしい」などこれまで以上のかかわりを求める声がある一方、「必要以上にかかわってほしくない」「相談所の職員は専門性に欠けており、援助ができないなら、かかわらないでほしい」という厳しい意見もあった。

子供は六十四人中、三十三人が日常生活に問題はないと答えた。ただ、「人間関係がうまくいかず、学校でも友達ができにくい」(中二)、「今後、実母のところに行くことになるのかどうかわからない」(小五)という悩みや不安を抱える子供もいた。

調査結果は、県児童家庭課や児童相談所などが設置を予定する検討班で分析し、今後の対応に生かす。

2002/11/26 朝日新聞 東京朝刊 里親制度 研修や支援を議論、改善を（私の視点）

今年10月の里親月間は近年にない盛り上がりを見せた。だが、それを一気に冷やす出来事が宇都宮市で起きた。3歳の女儿を里親が虐待死させた事件である。

私は20年近く養育専任の里親をしてきた。その一人としてこの子に申し訳なく思う。里親選びの審査は十分だったか。子を預けた後の支援はどうだったか。次々と疑問がわいてくる。

私たち里親経験者からなる市民グループは、9月下旬に児童虐待対策の先進国である米国を視察した。虐待防止と里親制度とは一見関係ないように見えるが、虐待を

理由に親と子が分離されると、子どもの安全な生活場所として、養護施設か里親家庭が指定されるのである。

2年前の児童虐待防止法の制定以来、里親制度に注目が集まっている。虐待を受けた子どもを育てるのは簡単でなく、一人一人に丁寧に向き合える環境が求められるからだ。

里親たち自身の間でも意識変化が起きている。子どもの権利条約などの影響もあり、この制度は子どもの人生を応援する、公的役割を担った社会的な養護なのだ、各地で多くの人が気づき始めた。

だがこれまで、里親制度はボランティア精神に富む一部の人の手に委ねられたまま、いわば社会の片隅で細々と営まれてきた。本来、大きな責任を担っている里親への研修や支援が議論されることはほとんどなかった。それが今回の悲劇の背景にあると思う。

里親制度を本当に子どもの役に立つよう改善していくために、何をしたら良いのか。私たちの学習体験から6点提案したい。

- (1) 年齢や家の広さ、年収など物理的条件に傾きがちな里親登録時の審査を見直し、候補者の適性を見極められる工夫をする。周囲の人の評価を取り入れるなどの方法も有効だろう。
- (2) 里親候補者に、既に子どもを迎え入れている里親宅でボランティア活動をするなど、事前に経験を積む機会を設ける。
- (3) 登録後も、子どもを委託した後も、里親としての力量を高めていく研修を続けて実施する。
- (4) 子どものためのソーシャルワーカーはもちろん、里親専任のソーシャルワーカーを置く。今でも児童相談所の福祉司が相談相手になってくれるが、専任でなく、また里親・里子を同一人物が担当するため、里親に寄り添うサポートができていない。
- (5) そのためにも「虐待ケアセンター」(仮称)を作る。ソーシャルワーカーや医師、弁護士などの専門家が常駐し、いつでも相談に乗ってくれる拠点とする。
- (6) 里親のレスパイト(一時的な休息)制度を設ける。障害児を持つ親たちの間では既に行われている。

以上のうち、研修とレスパイトには、厚生労働省も今春から取り組み始めた。その矢先に冒頭の事件が起き、「もっと早く手をつけていれば」と思わずにいられない。ほかにも、実の親をケアするプログラムの実践や、見えにくい心理的・性的虐待の判断方法の確立など、しなければならぬことは山ほどある。

事件を機に社会全体でこの問題を考えてほしい。そして、里親が「子どもの人権を守っている」と誇りを持つ制度にしていきたい。

(里親子支援グループ「アン基金プロジェクト」事務局長)